Architecture / Design / Education / International Exchange

NICHE

工学院大学建築学部同窓会誌

http://niche-alumni.com
2017 vol.40

創刊 50 周年

ドイツ建築探訪！

ブルーノ・タウト再考

ドイツ派、妻木頼黄と矢部又吉

速報！　白樺湖夏の家　工学院大学旧白樺湖学寮 1968-2016

合格率※1 と 合格占有率※2

受験予備校を選ぶなら、どちらを重視しますか?

※1 合格率…受講生のうち、どれくらい合格されたのか?　※2 合格占有率…合格者全体のうち、受講生合格者がどれくらい占めたのか?

日建学院
2016年度
1級建築士
設計製図試験
合格実績

合格率
模擬基準達成者 1,929人中
合格者
1,164人

60.3%

模擬基準達成者以外の受験生合格率
模擬基準達成者以外の受験生6,724人中／合格者2,509人
37.3%

その差ズバリ! **23%**

★ 今年も圧勝!製図も日建学院 ★

上記合格率には、通信講座・WEB講座及び模擬試験のみの受講生は一切含まれておりません。
※模擬基準達成者…1級建築士設計製図の通学コースの受講者で最終模擬試験（特訓模擬試験）を受験し、採点規定による欠格要件「に該当しなかった方です。
※欠格要件…当学院の採点規定において、「ランクⅣ:設計条件・要求図面等に対する重大な不適合に該当するもの」としています。(例:未完成、指定構造以外、主要な要求室・設備の欠落)

私も
日建で頑張る!

since 1969

40年を超える経験と実績
29万人を超える建築士を輩出

1級建築士 累計合格占有率でも
No.1

結 努力を結果に結びつける

1980~2015年 合格者累計
日建学院 1級建築士 121,494人
全国累計1級建築士 224,289人※
当学院合格者の1級建築士占有率 54.2%
当学院本格稼働35年間の累計実績!
我が国の1級建築士の半分以上が日建学院出身者です。
2級建築士 169,472人 ※1980~2015年累計
宅地建物取引士 96,518人 ※1978~2015年累計
※上記全国累計は(公財)建築技術教育普及センター発表試験結果(1980~2015年)のデータです。

日建学院コールセンター フリーコール **0120-243-229**
株式会社建築資料研究社　東京都豊島区池袋2-50-1　受付／AM10:00~PM5:00(土・日・祝日は除きます)

日本全国
確認から省エネまで
すべての審査を
インターネットで

住宅性能評価センターは、電子認証インターネット確認申請で『日本初・第1号』の確認済証を交付した企業です。

建築確認／住宅性能評価／[フラット35]適合証明
住宅瑕疵担保責任保険検査／長期優良住宅／低炭素住宅／住宅性能証明書／ 建築物省エネルギー性能評価[BELS]

□東北地区出張所	：宮城県仙台市 ☎:022-292-3051	□西関西地区出張所	：兵庫県加古川市 ☎:079-456-9680
□北関東地区出張所	：栃木県宇都宮市 ☎:028-610-7140	□中九州地区出張所	：福岡県久留米市 ☎:0942-36-6580
□中関東地区出張所	：埼玉県さいたま市 ☎:048-661-7711	□西九州地区出張所	：長崎県佐世保市 ☎:0956-42-5401
□東関東地区出張所	：千葉県松戸市 ☎:047-704-6151	□東九州地区出張所	：宮崎県宮崎市 ☎:0985-35-5547
□西関東地区出張所	：東京都町田市 ☎:042-709-0420	□南九州地区出張所	：鹿児島県鹿児島市 ☎:099-208-2400
□関西地区出張所	：大阪府大阪市 ☎:06-6885-3670		

■ **本社:** 東京都新宿区新宿1-7-1 新宿171ビル3階 ☎:03-5367-8730(代表)　東京メトロ丸の内線 新宿御苑前駅 3 番出口隣接

一級建築士を求めています!!
- 20代－40代前半の方。審査の経験がなくてもOKです。設計経験者優遇
- 工学院大学卒業生の在籍者数：23 名

☎03-3225-3800(管理部　総務担当)までご連絡ください。

株式会社 住宅性能評価センター　住宅性能評価センター　検索
国土交通大臣 指定確認検査機関／国土交通大臣 登録住宅性能評価機関／住宅金融支援機構 協定指定機関／住宅瑕疵担保責任保険検査機関／国土交通大臣 登録建築物調査機関

建築学部同窓会は、現役学生の為の支援講座を開催しています。

卒業年の合格を目指す 2級建築士
工学院大学 アカデミックコース

建築士の基礎から実務まで、確実に実力を積み上げ、合格へ導いてくれる学習です。

卒業年に一発合格を

step 1 一年生対象 インターネットによる自宅学習

1学年：準備講座 Web

建築のための数学
建築に必要な数学の知識取得を目的に学習(集合又はWeb)を行います。
■構造で使う数学(力のモーメント)
■法規で使う数学(天井高)など

構造 ①
建築に必要な力学について学習します。
■反力とは
■静定ラーメンなど

学習時間の目安
■期間　6月から3月
■回数　11回(90分)
■目安　2週間に1回(2時間)の学習
■同窓会特別支援価格：4,000円

step 2 二年生対象 インターネットによる自宅学習

2学年：基本講座 Web

構造 ②
建築構造の概要から建築材料までの内容を学習します。
■応力とは
■建築材料
木材・金属・コンクリートなど

法規
建築基準法の概要から建築制限などを学習します。
■建築士法と業法
■容積・高さ制限など

学習時間の目安
■期間　6月から3月
■回数　24回(90分)
■目安　1週間に1回(2時間)の学習
■同窓会特別支援価格：5,000円

step 3 三年生対象 インターネットによる自宅学習

3学年：実務講座(プレアカデミック) Web

計画
建築計画の各論から、建築設備などを学習します。
■住宅・集合住宅
■消火・防災設備など

施工
施工準備から、仕上げ工事までの内容を学習します。
■施工計画
■内装・断熱工事など

学習時間の目安
■期間　10月から3月
■回数　36回(90分)
■目安　1週間に1回(2時間)の学習
■同窓会特別支援価格：10,000円

step 4 四年生対象
インターネットによる自宅学習と、卒論・設計提出前の10・11月に集中講義、及び卒業後の全国にある170校への通学講座(210,000円(税別))が含まれます。

4学年：2級問題解説講座(アカデミック) 通学

受験準備力学
建築に必要な力学の断面の性質と応力についての基礎を学習します。
■断面の性質と応力
■静定トラスなど

受験準備法規
建築基準法の構成や用語から、基礎的な内容を学習します。
■基準法のしくみ
■高さ制限など

学習時間の目安
■期間　10月から3月
■回数　14回(90分)
■目安　1週間に2回(2時間)の学習

2級問題解説講座
4科目の総まとめと本試験と同様の模擬試験を行います。
■各科目のまとめ
■模擬試験と全国統一模擬試験など
卒業した後の通い講義も含まれます。

3月から最寄りの日建学院へ
※通学で弱点補強を行い、合格へと導きます。
■同窓会特別支援価格：36,000円
(Web 講座＋大学における講義＋卒業後の通学講座を含む)

※講座内容は予告なく変更する場合が有りますのでご了承ください。

講座に関するお問合せ　日建学院コールセンター　0120-243-229　株式会社建築資料研究社　東京都豊島区池袋2-50-1
同窓会に関するお問合せ　工学院大学建築学部 鈴木研究室　Tel.03-3342-1211(代)

28年度 1級建築士合格学校別ランキング8位 <建築技術教育普及センター発表>

学部卒業年度に2級建築士になることは1級建築士合格に断然有利!

この講座は、工学院大学の授業進行に合わせて、**建築に必要な「建築のための数学」や「力学の基礎」から、毎年<1年生から受講可>、少しずつ知識を習得できるよう無理のない学習プログラムになっています。**この講座を受講して、卒業年に2級建築士学科試験の一発合格を目指しましょう。
これが最も早く、1級建築士合格につながることとなります。

諸先輩方につづけ!!

過去、この講座を受講して**2級建築士に合格(受験合格率66%)した先輩方のうち、1級建築士合格者の平均合格率は60%**<参考:28年度一般最終合格率12.0%>です。

お申し込みは、同窓会ホームページ（http://niche-alumni.com/）にて簡単に手続きができます。

〈主催〉工学院大学 建築学部 同窓会

インテリア コーディネーター講座

未来のために「今」できることを考える!

皆さんは、日々知識の習得に励み、アルバイトや仲間との交流を通じて、「今」しかできない、貴重な経験を重ねていることと思います。
学生時代は、そうした貴重な経験や体験ができる場であると同時に、近い将来、自分が進む路を方向づける場でもあります。
インテリアコーディネーターは、建築・不動産業界での仕事に活きる資格であるだけでなく、資格にチャレンジする過程で得る知識は、実務に就いた時に必ずや皆さんの助けとなるでしょう。また、就活に於いて有利な立場に立てることは言うまでもありません。
自分自身の未来のために、学生である「今」できることにチャレンジしませんか。

①就活に役立つ!

皆さんの人間性や個性を面接だけで企業側に伝えることはなかなか難しいですよね。目指す企業に就職するために、企業研究やOB訪問をし、面接準備を進めるのが一般的な就活対策ですが、その他にも自身の能力や強みを分かりやすく企業側に伝えることができるのが「資格」です。「資格」はそれ自体が価値のあるものですが、就活において資格は「目標に向けて努力をし、結果を出した人物」として評価されます。「住」に関する多くの業界で活かせる資格です。

②知識が生涯の財産に!

建築・住宅・インテリア関連の仕事に従事している方でも、インテリアを基礎からしっかり学んだという方は意外に多くありません。受験対策を通じて得る知識は、必ず実務で役に立ちます。しっかりした知識・教養に裏打ちされたスキルは、生涯を通じて皆さんの大きな財産となります。比較的時間に余裕のある「今」こそチャレンジに最適なタイミングです。

講　座　風　景

より受講しやすく、より理解しやすい講座へリニューアル!

	日程		学習内容
1	6月18日	日	オリエンテーション／【第3章】インテリアの歴史／【第4章】インテリアコーディネーションの計画①
2	6月25日	日	【第4章】インテリアコーディネーションの計画②③
3	7月 9日	日	【第6章】インテリアの構造・構法と仕上げ①②
4	7月16日	日	【第6章】インテリアの構造・構法と仕上げ③④
5	8月 8日	火	【第7章】環境と設備①②
6	8月24日	木	【第7章】環境と設備③④
7	8月27日	日	模擬試験1
8	9月 3日	日	【第5章】インテリアエレメント・関連エレメント①②③
9	9月17日	日	【第2章】インテリアコーディネーターの仕事／【第8章】インテリアコーディネーションと表現技法 【第9章】インテリア関連の法規・規格・制度
10	9月24日	日	模擬試験2
11	10月1日	日	答練講義1／答練講義2
10月8日（日）　インテリアコーディネーター1次試験(予定)			

受講料・連続受講割引

※講座日程およびカリキュラムについては、変更を行う場合があります。

・試験前の準備期間が2ヶ月から4ヶ月へ
合格に必要な実力が段階的に身に付く、ゆとりのあるスケジュールに改良。早期から学習を始めることで、予習と復習に十分な時間が取れるため、試験対策以外にも、大学の講義や将来の実務で役立つ知識まで、より密度の濃い学習が可能となります。

・学内スケジュールに配慮した講座日程
より多くの学生にスキルアップをして欲しいとの願いから、できるだけ通いやすい講座日程に調整を行い、ました。

■開講:6/18(日)
■場所:工学院大学 新宿キャンパス

お申し込みは、同窓会ホームページ（http://niche-alumni.com/）にて簡単に手続きができます。

〈主催〉工学院大学 建築学部 同窓会

NICHE 2017
vol.40
目次

8

10

16

19

26

6 同窓会より

巻頭言 6

NICHE Topics 8

10 ドイツ建築探訪！

ブルーノ・タウト再考 鈴木 敏彦 10

タウトをめぐる思い出 田中辰明 × 廣瀬正史 12

ベルリンの妻木頼黄と彼をめぐる人々 中島 智章 18

24 NICHE PASSPORT

自然環境を巧みに享受するオーストラリアの景観都市 加藤 慶 26

NY のオープンスペースで体験する日常と非日常 小林 千鶴 28

バルセロナ建築の新旧のレイヤーを学ぶ 此木 駿 30

スペイン・フランス・ドイツで感じた本物の体験 後藤 幹彦 32

シアトルにてまちの資源を読み解く 深田 隼人 34

人と建築と歴史が散りばめられた U.S.A 崎山 涼 36

38 NICHE LETTER

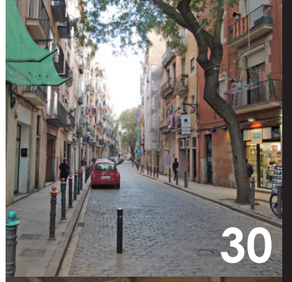
PHILA TAIPEI 2016 台北世界切手展にて金メダル受賞 大場 光博 38

42 NICHE GALLERY

白樺湖夏の家 工学院大学旧白樺湖学寮 1968-2016 鈴木 敏彦 42

NICHEとダイジェスト

2014年より、工学院大学建築学部同窓会誌NICHEは２冊に分かれました。一つは建築とデザインの学際的な架け橋として、海外取材に基づく特集記事と連載を中心とした叢書『NICHE』です。同窓会費や寄付金をお支払頂いた方にお送りするほか、全国主要書店やアマゾンで販売しています。もう一つは広報誌『NICHEダイジェスト』です。『NICHE』から抜粋した内容と本学に特化した記事を掲載し、同窓生や本学関係者に無料で配布します。


30

35

41

43

48

56

6月15日発売予定
（内容、発売日は変更になる場合があります）

NICHE 04

ドイツ建築探訪！
1　ブルーノ・タウト再考
2　バウハウスとその時代
3　ドイツ派、妻木頼黄と矢部又吉
2017年６月15日第１刷発行
280ページ永久保存版
特集160ページ、日独バイリンガル
定価：本体2,400円＋税

ドイツ建築探訪！

1 ブルーノ・タウト再考

タウトをめぐる思い出　田中辰明×廣瀬正史
少林山ブルーノ・タウト・コレクション
旧日向別邸と多賀の家
タウトと吉田鉄郎
仙台の工芸指導所におけるブルーノ・タウト
タウト、ドイツ建築マップ
ブリッツ、タウト・ハイムの修復と動態保存
＜コラム＞タウトの家滞在記
ヴェルクブントのドアノブ
＜コラム＞シュトゥットガルトのプロジェクト空間 TAUT

2 バウハウスとその時代

タウトのクリスタリゼーション
ドイツ、モダニズム建築の世界文化遺産
•エッセンのツォルフェライン炭坑業遺産群
•ヴァイマールとデッサウのバウハウスとその関連遺産群
•ベルリンの近代集合住宅群
•アルフェルトのファグス工場
バウハウス・ホテルと呼ばれた建築
実測、フランクフルト・キッチンとベルリン・キッチン
＜コラム＞エルンスト・マイのジードルングと庭
ツァイスのプラネタリウムの構造について
ポツダムの宮殿建築
＜コラム＞バウハウスとドイツデザインクラブ

3 ドイツ派、妻木頼黄と矢部又吉

ベルリンの妻木頼黄と彼をめぐる人々
森鷗外と妻木頼黄、エンデ、ベックマン

連載企画

近代建築を支えた建築家の系譜

輝かしき先輩たち⑱　小川建設の創業者、小川清次郎
清水組台湾支店長の土井豊吉とＯＢ
福島県の技術者たちを育んだ内田学校

同窓会より

巻頭言

2017 vol.40

創刊 50 周年

田園都市ファルケンベルク（1913-1916）

シラー公園の住宅団地（1924-1930）

今年、『NICHE』は『同窓会誌』として創刊してから記念すべき第40号を発行することになった。第５号から『龕NICHE』と改名し、第23号から『NICHE』の装丁となった。そして第37号から学内向けのダイジェスト版と、広く社会に発信する書籍版との両輪体制に変更した。1968年の創刊から50年、幾度かの危機を乗り越えた先に本号がある。改めて先輩方の功績を讃えると共に、未来に叡智を受け継いでいきたい。

同窓会は社会にはばたく諸君のための止まり木である。同窓会の最新動向、バックナンバーはNICHEのホームページから発信している。

http://niche-alumni.com

建築系同窓会の二つの取り組みについて

近年の建築系同窓会の活動は、出版を通じ二つの使命を果たしている。

一つ目は近代建築の保存に関する活動である。かつて工学院大学建築学科の教授であった武藤章先生が設計した工学院大学八王子図書館が、2015年10月に解体されたことは記憶に新しい。建築系同窓会では建築の保存を強く訴えたがそれはかなわず、同窓会として何ができるかを模索する中で、書籍化という答えに帰着した。同年12月に丸善出版株式会社より全国で発売した『建築を保存する本 01工学院大学八王子図書館/武藤章 1979年12月竣工〜2015年10月解体』は、解体直前の詳細な取り下ろし写真72カットと108枚に上る実施図面意匠図のすべてを一冊にまとめたものだ。この本さえあればいつでも再建が可能だ。これから建築を考えるということは、いつの日か解体すること、そしてどのように保存していくかを意味する。

2016年３月、またもや武藤先生が1968年に設計した「工学院大学白樺湖学寮」が閉鎖され、建物の解体の危機に面した。今度こそ武藤先生が設計した珠玉の建築を残さなくてはならない。建築系同窓会として大学から土地の借地権と建物を引き継ぎ、一部を減築して「白樺湖夏の家」として再生することを決意した。減築後、学寮としては消防上使用できなかった暖炉に灯を入れると、空間が生き生きと蘇っていった。校友のために一つの建築を守ったという安堵と同時に、後世に引き継ぐという重い責任を感じている。

本誌のNICHEギャラリーでは、「工学院大学旧白樺湖学寮／白樺湖夏の家」の保存と活用について報告する。2016年３月の閉鎖から、同窓会の委譲手続き、減築工事、内装工事を経て10月に完成した姿を撮り下ろし写真と図面でまとめた速報版である。

二つ目は、本学の前身である工手学校で活躍した先人に関する研究である。工手学校出身者は明治の日本および諸外国の発展に貢献した。彼らの役割を明らかにし、広く世の中に発信していくことは、工学院大学を引き継ぐ私たちの誇りと希望につながる。これまでの研究成果は３冊に及ぶ。2012年発刊の『工手学校―日本の近代建築を支えた建築家の系譜―工学院大学』（彰国社）で総括し、2015年の『NICHE 02 台湾建築探訪』では日本統治下の台湾の発展に貢献した梅澤捨次郎の仕事をまとめ、2016年の『NICHE 03 フランス建築探訪』では本

ベルリン市ブリッツの馬蹄形住宅（1925-1930）
撮影：Ben Buschfeld

カール・レギエンの住宅都市（1928-1930）

学アトリウムの胸像のモデルのひとりであり、第２代管理長であった古市公威先生のフランス留学時代の足跡を追った。そして2017年は『NICHE 04 ドイツ建築探訪』と題して、工手学校の師弟関係にあった「ドイツ派、妻木頼黄と矢部又吉」を中心に、親日家でもあった建築家ブルーノ・タウトを特集する。本誌ではその一部を紹介する。

そもそもタウトの研究を始めたのは、縁あって少林山達磨寺からタウト関連資料の活用方法について相談があったことがきっかけである。タウトはナチス政権下のドイツを離れて来日し、達磨寺の境内にある洗心亭に２年２か月滞在した。ここにドイツと日本の接点が生まれる。短い間ではあったが、タウトはここで日本の建築の良さについて発言し、工芸品の指導を行い、執筆し、多くの資料を残した。少林山では資料室をつくり大事に展示してきた。時が流れ、タウトは2008年に再び世界的な脚光を浴びる。来日前の1925年から30年にベルリンで設計した集合住宅４棟がユネスコの世界遺産に登録されたのだ。そこで、タウトの資料のデジタルアーカイブ化と並行して、タウトのドイツにおける業績をおさらいすることになった。つまり、タウトが建築家として生きた時代を再考するということは、バウハウスを検証し、日本ではドイツ工作連盟と訳されているドイチャーヴェルクブントを知るということである。その結果、ベルリンに始まり、デッサウ、ヴァイマール、シュトゥットガルト、フランクフルト、エッセン、ブレーメン、そして再びベルリンへと時計回りに3000キロを一周した。それはドイツで人口が爆発的に増えて住宅が整備された1910年から30年の時代背景を検証することでもあり、工手学校創設メンバーのひとりであった妻木頼黄がベルリンに学んだ1886年から1889年を顧みることでもあり、タウトが来日した1933年から1936年の日本を俯瞰することでもあった。日本でタウトを世話した高崎随一の実業家であった井上房一郎は、同時期にアントニン＆ノエミ・レーモンドも後援している。このあたりは『NICHE 03 フランス建築探訪』のレーモンド特集に記している。

こうして日本とドイツの点を結び、線をたどるがごとく、ベルリンでその手がかりを探した。妻木と教え子の矢部が留学したベルリン工科大学を訪ねたが、当時の建物は空爆で跡形も無く消え、新キャンパス前の大木のみが当時と変わらぬ姿で佇んでいた。妻木の手がかりを求めて森鷗外記念館を訪ねたところ、副館長のベアーテ・ヴォンデさんが鷗外研究の一環で妻木の事を調べていた。ドイツの建築家、エンデとベックマンが関わった東京の水道工事計画のために妻木がドイツに派遣されていた頃、森鷗外もまた病理学的権威としてこの計画に関わっていたという。

大学という学び舎は知的資源の宝庫である。そして言語と国境を越えた人的ネットワークこそ、未来への力を育む。大学で切磋琢磨した仲間たちと共に手を携え、新しい未来を切り拓いていこうではないか。

2017年２月　東京にて

『NICHE』編集長

建築学部同窓会会長　鈴木敏彦

ユネスコ世界文化遺産の６つの住宅団地

2008年、ベルリンの６つの集合住宅がベルリンのモダニズム集合住宅群としてユネスコの世界遺産に登録された。その中で以下の４つの集合住宅はブルーノ・タウトが中心となって計画・設計がなされた。これらを含めてベルリンにある全26団地、総戸数12000戸がタウトの設計によるものである。

●「田園都市ファルケンベルク」
（Gartenstadt Falkenberg, 1913-16）
所在地：Akazienhof 1, 12524 Berlin, Germany
●「シラー公園の住宅団地」
（Siedlung Schillerpark, 1924-30）
所在地：13349 Berlin, Germany
●「ベルリン市ブリッツの馬蹄形住宅」
（Hufeisensiedlung Britz, 1925-30）
所在地：12359 Berlin, Germany
●「カール・レギエンの住宅都市」
（Wohnstadt Carl Legien, 1928-30）
所在地：Erich-Weinert-Straße, 10409 Berlin, Germany

鈴木 敏彦　Toshihiko Suzuki

建築家・デザイナー

1958 年東京生まれ。工学院大学建築学科修士課程修了。黒川紀章建築都市設計事務所、フランス新都市開発公社 EPAmarne、早稲田大学建築学専攻博士課程を経て、1999-2007 年東北芸術工科大学プロダクトデザイン学科助教授、2007-2010 年首都大学東京システムデザイン学部准教授、2010-2011 年工学院大学工学部建築都市デザイン学科教授。2011 年より工学院大学建築学部建築学科教授。

北欧建築・デザイン協会理事。日本インテリア学会理事。

グッドデザイン賞／中小企業庁長官賞、アジアデザイン大賞グランプリ、レクサスデザインアワード 2013、iF デザインアワード 2014、第 19 回木材活用コンクール林野庁長官賞、A'Design Award2016 銀賞他受賞多数。

著書に『世界で一番美しい建築デザインの教科書』（エクスナレッジ）、『北欧の巨匠に学ぶ図法 家具・インテリア・建築のデザイン基礎』（彰国社）、『北欧の巨匠に学ぶデザイン アスプルンド / アールト / ヤコブセン』（彰国社）、『建築プロダクトデザイン／暮らしを劇的に変えるモノと空間の設計思想』（講談社）、『ヤコブセンの建築とデザイン』（TOTO 出版）、『プロセスでわかる 住宅の設計・施工』（彰国社）などがある。

同窓会より

NICHE Topics

2016年度の話題

1 2016年 日本建築学会賞

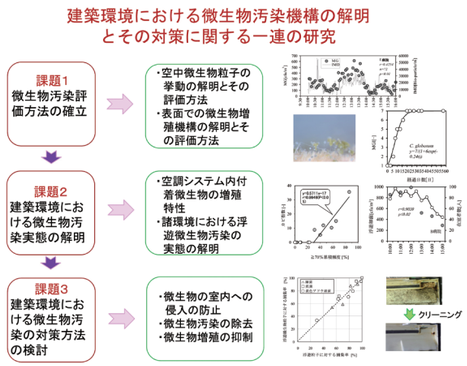
工学院大学では2016年度も日本建築学会賞の受賞者３名を輩出した。

◆ 2016年日本建築学会賞(論文)

『建築環境における微生物汚染機構の解明とその対策に関する一連の研究』

柳 宇 （工学院大学建築学部教授）

建築学部建築学科の柳宇先生は『建築環境における微生物汚染機構の解明とその対策に関する一連の研究』の論文で受賞した。空気中に浮遊する細菌など微生物の濃度を測定し、空調システムやダクトにおける温湿度とカビの関係を明らかにし、エアフィルタやオゾン殺菌の有効性を示した。空調システム内の微生物汚染メカニズムを解明した論文の学術的価値と、厚生労働省の建築の維持管理マニュアルや日本建築学会環境基準に反映された社会への貢献性が高く評価された。



◆ 2016年日本建築学会賞(業績)

『耐震改修における構造デザインの実践と啓発活動』

金箱 温春 （金箱構造設計事務所代表取締役、工学院大学特別専任教授）

建築学部建築デザイン学科教授の金箱温春先生は『耐震改修における構造デザインの実践と啓発活動』の業績で受賞した。耐震改修は身近に行われているが、その改修デザインについての議論は未成熟である。構造設計事務所の主宰者として十年にわたり実施した、新たな空間機能を「加える改修」、上層階を「減らす改修」、木造の建物に鉄骨フレームを「添える改修」は建物価値を高めるものだ。耐震改修は構造技術者と建築家の夢のある協働であり、社会的に大きな価値を与えるものとして評価された。

浜松サーラ

◆ 2016年日本建築学会著作賞

『芝増上寺境内地の歴史的景観－その建築と都市的空間－』

伊坂 道子 （(株)伊坂デザイン工房共同代表）

工学院大学大学院2009年修了の伊坂道子氏は『芝増上寺境内地の歴史的景観－その建築と都市的空間－』の著作で受賞した。伽藍建築の修理工事に関与した関係から、芝増上寺境内地に関する諸資料をほぼ網羅した。境内地の変遷、霊廟大徳院と有章院に関する伽藍構成、公園指定の過程を詳しく描いている。芝増上寺の研究を通じ、創建時の14世紀、江戸、明治から東京に至る都市空間の近代的再編過程を物語る著作は他に類を見ず、建築史、都市史研究の進展に多大に寄与したことが評価された。

『芝増上寺境内地の歴史的景観－その建築と都市的空間－』

岩田書院
335ページ
8,800円＋税
2013年11月

2 一級建築士合格者 大学別ランキングで７位

国土交通省から、2016年度一級建築士試験「設計製図の試験」の合格者が発表された。本学出身の合格者は61人。学校別合格者では全国７位。昨年度の６位からランクダウンした。

平成28年一級建築士合格者上位大学

1位	日本大学	180名	6位	神戸大学	65名
2位	東京理科大学	123名	**7位**	**工学院大学**	**61名**
3位	芝浦工業大学	90名		九州大学	61名
4位	早稲田大学	81名	9位	法政大学	57名
5位	近畿大学	69名	10位	明治大学	52名

出典：公益財団法人建築技術教育普及センター
平成28年一級建築士試験「設計製図の試験」の学校別合格者数一覧

3 「ダンボールシェルター」を熊本地震の避難所に提供

2016年の熊本地震に際し、工学院大学校友会と工学院大学建築学部同窓会は、熊本県に「ダンボールシェルター３」を80個提供した。工学院大学鈴木敏彦研究室では2011年の東日本大震災に同モデルの１と２を届けた後に改良を重ね、着替えや授乳や診察の用途に対応するタイプを開発した。今回は建築学部同窓会からの寄付金を元に生産し、戸田建設株式会社CSR・九州支店に物流のサポートを受け、校友会・熊本支部が現地にて設置と制作支援を行った。４月26日に東京から発送した。28日に福岡の戸田建設にて一旦保管したのち、29日に熊本県上益城町益城町の避難所に20個、熊本県阿蘇郡西原村に15個、30日に熊本県阿蘇郡南阿蘇村に20個、熊本県阿蘇市に25個を提供した。ヒューマンスケールに基づく空間は被災者にプライバシーと安心感を提供し、子供たちにとっては格好の遊び場となる。ダンボールシェルターには安価な材料費でまかなえ、組み立てが容易で、日ごろから備蓄できるというメリットがある。クリエイティブコモンズに基づき図面を大学のサイトにて無料で公開している。また、「クロスウォールシステム」100セット200箱と、「ダンボールシェルター３」80個を準備し、今後の支援に備えている。

4 PHILA TAIPEI 2016 にて金メダルを受賞

工学院大学大学院1971年修了の大場光博氏が2016年10月25日に台北で開催された国際切手展「PHILA TAIPEI 2016」にて金賞を受賞した。受賞した作品は「The Opening of China(中国の開国) 1745～1897」を研究したもので、中国初期の外国郵便制度を明らかにした。上海、マカオ、アメリカ、イギリス、ロシア等を行き来した当時の手紙と切手から、阿片戦争や南京条約、列強の中国分割の歴史をひもといた。

5 工学院大学白樺湖学寮の閉鎖と建築同窓会による保存の試み

建築系同窓会では旧学寮を「白樺湖夏の家」として今春リニューアルオープンする。1968年に工学院大学の教授であった武藤章先生が設計した旧白樺湖学寮は、夏は合宿、冬はスキーでにぎわった。しかし利用者が減り、建物を解体して更地に戻す方向に大学は舵を切ろうとした。そこで建築系同窓会では土地の借地権と建物を引き継ぎ、一部を減築し利用を夏期に限定することで維持費をおさえる計画を立てた。20名の発起人を会員として30万円、合計600万円の寄付を集め、これを原資にアールトと北欧デザインづくしの空間に変えた。会員はそれぞれ鍵を持ち「白樺湖夏の家」を別荘のように使うことができる。寝袋は必要だが、食器から掃除機まで一通りそろっている。保存と活用にご協力頂ける方は「建築を保存する会」（入会時寄付金300,000円、維持協力金12,000円／年）に、企業として支援いただける方には「建築の保存を支援する企業の会」（入会時寄付金500,000円、維持協力費120,000円／年）をご案内する。詳細は53ページ、お問合せは鈴木敏彦まで。suzuki@atelier-opa.com

ブルーノ・タウト再考

Bruno Taut

ヴェルクブント・アーキテクトとしてのタウト

鈴木 敏彦

ブルーノ・タウト（1880-1938）はヴェルクブント・アーキテクト（ドイツ工作連盟の会員の建築家）であった。この視点からタウトとその時代を再考する。「ドイツ工作連盟（ドイチャーヴェルクブント）」とは、大量生産を前提としたインダストリアルデザインを振興する1907年に設立された団体である。タウトは、ヴェルクブント・アーキテクトとして1914年の第１回ドイツ工作連盟ケルン展において「グラスハウス」を発表してドイツ表現派として名を馳せ、さらに1924年から1931年にはベルリンに１万2000戸もの色彩豊かで良質な集合住宅（ジードルング）を供給し、国際的にも評価されていた。

1933年、ヒトラー政権成立の数日前に自らの身に危険が迫っていることを知り、ベルリンを脱出して日本に渡ることを決意する。エリカ・ヴィッティヒ（1893-1975）とともにモスクワ、ウラジオストックを経由し、５月３日、敦賀に到着する。おそらくタウトは日本でも建築の仕事をするつもりだった。

しかし当時の日独関係からして、タウトに建築の仕事が与えられる状況にはなかった。タウトが日本で成し遂げたのは、日本の美をめぐる著作の発表と、工芸デザインの仕事であった。同年、仙台の商工省工芸指導所は『独乙ヴェルクブントの設立とその精神』を発行し、椅子や照明作品の展覧会を東京で開いていた。ここでタウトは感想を乞われて展示品をやっつけ仕事として批判する。それを明文化した「工芸指導所に対する諸提案」にタウトは「ドイツ工作連盟と同じ目標である」と記している。この率直な意見が評価されてタウトは工芸指導所に招聘される。翌1934年、タウトは高崎の実業家の井上房一郎（1898-1993）と出会う。井上はパリに1923年から７年留学して、セザンヌやフランス芸術に多大な影響を受けて帰国したところだった。そして日本の美的工芸品を再評価し、高崎の工業試験場において木工、漆工、染色の生産と販売を広範囲に始めようとしていた。タウトは井上が掲げた芸術と生産性の統合という理想はまさにインダストリアルデザインだと共鳴して、群馬県工業試験場高崎分場にデザインディレクターとして就任する。タウトはふたたびヴェルクブント・アーキテクトとして、高崎において工芸デザイン指導に専心した。

タウトの指導法は明確だった。良いものは良い、悪いデザインは「キッチュ」として白黒をつけた。これはまさにヴェルクブントの発想であった。タウトは「キッチュ」の日本語訳を「いかもの」と知り、その言葉を連発して日本人に美の良し悪しの判断を迫った。そして1936年に日本を去るまでに「いかもの」ではない300種類以上のデザインを日本に残した。その中には昭和天皇への献上品も含まれる。グッドデザインの審美眼を日本人に問うたタウトに、今改めて、ヴェルクブント・アーキテクトゆえの使命感を感じる。

タウトとエリカの年譜

1880 年 5 月 4 日、東プロイセンの首都ケーニヒスベルクに生まれる。1984 年 5 月 15 日、実弟マックス・タウトが生まれる。1897 年、ケーニヒスベルクの建築工芸学校に学ぶ。この頃左官を学ぶ。1901 年、建築工芸学校卒業。1902 年、ハンブルク・アルトナのイノゲバウアー建築事務所に勤務。次に、ヴィーズバーデンの F.M. ファブリーの許で働く。1903-1904 年、ブルーノ・メーリングの建築事務所に勤務。1904-1906 年、シュトゥットガルトのテオドール・フィッシャーの建築事務所に勤務。1906 年、コーリン出身のヘドヴィック・ヴォルガストと結婚。ベルリンに戻る。1908 年、建築家ハインツ・ラッセン建築事務所に勤務。1909 年、建築家として独立。建築家フランツ・ホフマンと共に「タウト＆ホフマン」共同設計事務所を設立。1910 年、ドイツ工作連盟（ヴェルクブント）の会員になる。1913 年、ドイツ田園都市協会の主任建築家になる。弟のマックス・タウト (1884-1967) が新たに加わり、設計事務所「タウト兄弟＆ホフマン」を設立。1914 年、ケルンの工作連盟博覧会に参加しガラス工業組合のパビリオン「グラスハウス」を発表。1915 年、従軍を拒否し、ハーウェル川沿いにあるブラウエにある火薬工場関連の建築主任。1917 年、ケルン郊外ベルギッシュ・グラドバッハにてドイツ田園都市協会に勤務。職場の部下であり、後の伴侶となるエリカ・ヴィッティヒ（1893-1975）と出逢い、同棲。1918 年 10 月 24 日、エリカとの間に娘のクラリッサが生まれる。正妻ヘドヴィヒの許しを得て、エリカの連れ子エミーとクラリッサを自分の籍に入れる。1921-1924 年、マグデブルク市の建築顧問を務める。芸術建築雑誌『フリューリヒト』を創刊、同誌に「色彩宣言」を発表。1924-1932 年、「ゲハーグ」ベルリン市住宅供給公社の主任建築家を務める。労働者の健康を考慮した集合住宅に注力し、８年間で 12000 戸の住宅建築に関わる。1926 年、建築家連盟「リング」会員となる。1927 年、シュトゥットガルトで行われたドイツ工作連盟のヴァイセンホーフ・ジードルング「住宅展」に出品。1930 年、ベルリン工科大学校で住宅と住宅団地計画の客員教授に着任。1931 年、モスクワ・インツーリストのホテルコンペに参加。アメリカ建築家協会 AIA 名誉会員に推挙。ベルリンにあるプロイセン・ベルリン芸術アカデミー会員に選ばれる。1932 年、モスクワに滞在。モスソヴィエト・ホテル、住宅プロジェクトに従事。その後ベルリンに戻る。1933 年、ドイツではナチスが政権を掌握。親ソ連派の「文化ボルシェヴィキ主義者」という烙印を押されてタウトは職と地位を奪われる。ドイツに戻って二週間でタウトはエリカと出国する。スイスからパリとマルセイユを経由し、船でイスタンブール、オデッサ、列車でモスクワへ。シベリア鉄道でウラジオストックへ至る。５月３日に日本の敦賀に上陸。上野伊三郎はじめインターナショナル建築会の出迎えを受ける。京都に滞在。自身の誕生日である５月４日、上野伊三郎夫妻の案内で桂離宮を見学し絶賛する。また日光東照宮を見学し「威圧的で親しみがない」と批判。葉山に滞在。伊勢神宮を見学。仙台に滞在し、仙台国立工芸指導所の顧問となる。1934 年、東京に滞在。東京帝国大学で講演。８月、高崎の井上房一郎の手引きでタウトとエリカは少林山達磨寺の洗心亭を住まいとする。また、井上の工芸作品のデザイン担当として招かれる。エリカは英語を話し、速記を得意とし、タウトの口述筆記と清書を行った。また、エリカは自由学園にてドイツ料理を教え、『婦人之友』に寄稿して、有能な秘書以上の役目を果たした。1936 年冬、秋田と京都を訪ねる。大阪の大丸で「ブルーノ・タウト指導工芸品展」を開催。９月、熱海の日向別邸が完成する。10 月 8 日、高崎小林山洗心亭を去る。関釜連絡線でエリカと共に離日。韓国、満州、北京、イルクーツク、モスクワ、オデッサを経由しトルコに到着。イスタンブル芸術アカデミーにて建築部門主任教授、及びトルコ文化省建築研究主任を務める。1938 年 12 月 24 日、心不全のためイスタンブルにおいて逝去。享年 58 歳。イスタンブルの墓所エディルカネ・セヒトリギに眠る。ベルリンの新聞に正妻ヘドヴィヒの名前で死亡広告を掲載する。1939 年 9 月、エリカがタウトの遺稿と遺品とデスマスクを少林山達磨寺に持ち寄る。12 月 24 日、エリカと日本の友人が達磨寺に集まり、住職廣瀬大蟲を導師として一周忌の法事を行う。1940 年 12 月、エリカは日本を去る。1975 年 11 月 1 日、ベルリン、ブリッツの墓地にてエリカ永眠。

タウトをめぐる思い出

田中辰明×廣瀬正史

2016年11月8日、かつてブルーノ・タウトが滞在した少林山達磨寺の洗心亭にて、廣瀬正史住職と、お茶の水女子大学名誉教授の田中辰明先生にタウトをめぐる思い出を話して頂いた。

進行：鈴木敏彦、撮影：齋藤さだむ、録音・編集：杉原有紀、浅水雄紀

田中 辰明　Tatsuaki Tanaka

お茶の水女子大学名誉教授

1965 年早稲田大学大学院理工学研究科修了。1965 年 4 月 -1993 年 3 月（株）大林組技術研究所。1971 年 -1973 年 DAAD(ドイツ学術奉仕会) 奨学生としてベルリン工科大学ヘルマン・リーチェル研究所留学（客員研究員）。1979 年工学博士（早稲田大学）。1993 年 4 月 -2006 年 3 月お茶の水女子大学生活科学部教授。2006 年ドイツ技術者協会（VDI）よりヘルマン・リーチェル栄誉メダルを授与。2008 年 1 月 17 日　厚生労働大臣より「建築物環境衛生工学の発展」の功績による表彰。現在、お茶の水女子大学名誉教授、（一社）日本断熱住宅技術協会理事長。

著書に『建築家ブルーノ・タウト —人とその時代、建築、工芸—』（柚本玲と共著）オーム社 2010 年、『ブルーノ・タウト - 日本美を再発見した建築家』中公新書 2012 年、『ブルーノ・タウトと建築・芸術・社会』東海大学出版会 2014 年、他多数

少林山達磨寺の洗心亭にて、左が田中辰明先生、右が廣瀬正史住職。

廣瀬 正史　Seishi Hirose

少林山達磨寺 住職

1977 年駒澤大学仏教学部仏教学科卒業。黄檗山禅堂（専門道場）掛錫（修行）。1981 年少林山達磨寺の住職に就任。2000 年ブルーノ・タウトの映像を作る会に参画。市民活動でブルーノ・タウト生誕 120 周年ドキュメンタリー「知の DNA　夢ひかる刻」を制作。テレビ朝日にて出演、放送。2009 年第 4 回『ブルーノ・タウト賞』を受賞。タウトを温かく迎えたことや、三代にわたり資料の保存に努めたことが評価される。
役職歴　黄檗宗青年僧の会会長。他黄檗宗内外の役職を歴任。現在、黄檗宗大本山万福寺責任役員、黄檗宗東日本協議会会長、日本達磨会副理事長、世界達摩協会理事、高崎仏教会副会長、社会福祉法人いのちの電話理事・評議員、保護司、他。

著書に『よくわかるだるまさん』チクマ秀版社 2000 年、『迷いがすーっと消えるかきすて禅語帖』キノブックス 2016 年

田中：ブルーノ・タウトは日本に1933年５月３日に敦賀にやって来て、洗心亭に入居した日が1934年８月１日です。実際にはドイツから敦賀に入ってきたのですが、横浜に着いたと、自分の生涯を小説風に日記に書いています。岩波書店から出たタウト『日本の家屋と生活』という本です。ここに来るまではかなり不安がっていた様なことが書いてございますね。しかしここに参りまして、この部屋の簡素な美しさ、それが素晴らしいと最初から言っています。

当時ブルーノ・タウトを受け入れたのは現住職のご祖父様である廣瀬大蟲住職でした。奥様を連れて、それから日記には長女と書いてありますけども実際は次女の敏子様と、三人でこの洗心亭にやってこられて、日本式の非常に丁寧な挨拶をしました。それから非常に打ち解けて、特に敏子様がこの部屋に入って床の間に花を活けたり、お琴を弾いたり、掃除もやって、非常によく面倒を見てくれたと。それで敏子さんをかなり気に入るのです。というもの、敏子さんはブルーノ・タウトがドイツに残してきたクラリッサという娘とたまたま同じ年の生まれであったようですね。

大蟲和尚は大変立派な方だと伺っております。特に日本が原子力発電を始めようとした時には反対して、「電気のある便利な生活よりも貧しい生活でいい。あんなものはいらない」ということを読売新聞の正力松太郎社主に手紙を出したと伺っております。そういった方がおられたから、ブルーノ・タウトをこの時期に招き入れたのではないかと思います。ブルーノ・タウトは亡命者ですから、場合によっては厄介な人間で、断ってしまえばいいものを喜んで受け入れられた。そういったところはたいしたものだと思いますね。

廣瀬：当初はブルーノ・タウトが100日の期限でここに住むことを井上房一郎[※1]さんと契約したそうです。ドイツの大建築家ということはもう先に知らされていたようでして、そういう素晴らしい方が見えるのでしたら、三ヶ月の間ということもあったと思いますが、是非ご接待しようというつもりで受け入れられたのではないかと思いますね。

田中：ブルーノ・タウトが洗心亭に住むと、バーナード・リーチや柳宗悦といった大変な著名人が日本の各地から訪れて、12月の末にここにお泊りになって、タウトと芸術論、哲学、一般のことを話し合ったと。翌日には井上房一郎さんが参加しています。また、高崎でもだいぶ仕事をしていた建築家のレーモンド夫妻もここを訪ねています。

廣瀬：お寺に大蟲和尚が書き留めたものには「世界各国のいろいろな方が見えるので驚いている。やはりすごい建築家だ」という記述がありました。

田中：タウトの日記には「たくさんの方がここを訪れ、そうかと思うと全く客が来ない日もあった。それを閑居である」と書いてあります。サンクトペテルブルグの貴族の出身で亡命のような形で日本に来た、ロシアのブブノア夫人とは東京に行くと会ったり、こちらで一緒に散歩をしたりということも書いてあります。ワルワーラ・ブブノワは東京では早稲田大学の露文科で非常勤講師としてロシア語を教えており、あまり安定した生活ではなかったようです。タウトと通じる表現主義の素晴らしい絵や版画作品を残し、それが今では早稲田に寄付されています。

廣瀬：タウトがブブノワさんと会うときは、エリカもなにか遠慮していたくらい、お二人は仲が良くお気が通じていたという話を水原徳言[※2]さんから聞いております。

田中：ブルーノ・タウトから見るとブブノワ夫人がさらに知的な人間だという風に映ったのかもしれませんね。それと、洗心亭にいたときにタウトは当然のことながら故郷ドイツを思っていたわけです。タウトが洗心亭に来たのが８月１日という非常に暑い時期で、ドイツ人には日本の暑さが大変だったと思いますが、移ろい行く四季のそれぞれの景色を丁寧に日記に書いています。

廣瀬：そうですね。街の風景とここから見える田園風景や自然から、安らぎや懐かしさを心に思い浮かべたのではないかと思います。この地域では人とすれ違うときに「こんばんは」「こんにちは」と挨拶をしていました。日本人の礼の仕方が非常に丁重だということで、タウトは非常に感激しているわけです。タウトは「散歩の途中で『こんばんは』と勝手に農家に入る」と地元の人たちが言っています。昼間でも「こんばんは」と言いながら入っていって、床柱をなでたり、梁を見たり、建築家だからどこに行っても家の造りに興味があったのでしょう。日本の建築は曲がったものも活かしてうまく使っていました。この辺りには古い建物も残っていたからよく観察したようです。

田中：タウトは日本語があまり達者ではないので、みんなに「ダンケ」と言ったので、この村にはありがとうのドイツ語がずっと伝わったそうですね。

廣瀬：我々も小さい頃はダンケと言う言葉だけは知っていました。またこの地域では皆で「タウトさん」「エリカさん」と親しみをこめて呼んでいました。

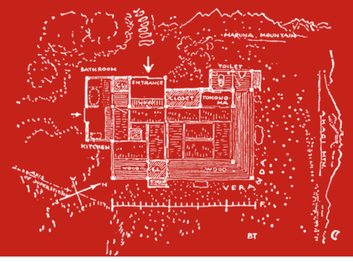
田中：ブルーノ・タウトもエリカもここでさびしいであろうということで、大蟲和尚が小学生を呼んで演芸会を開いてそれをタウトが非常に喜んだそうですね。

廣瀬：ここに来て一月ほど経った頃、昭和９年９月９日に、もう故郷に帰れないタウトを皆で慰めようとしたのだと思います。講堂で小学生が歌と大人顔負けの優雅な踊りを見せたといって非常にほめておりましたね。タウトが亡命さながらにやって来て帰れないというのを皆ある程度分かっていたようですね。

田中：タウトは旅人だったのではないかと思われます。ここには、ひと時の宿として住んでいたのではないでしょうか。タウトは今ではロシア領になった、ドイツの東プロシアのケーニスベルクの出身です。大人になってベルリンに出てきて、シュトゥットガルトのテオドール・フィッシャー[※3]という有名な建築家のところで修業をして、それからベルリンで自分の設計事務所を開きました。モスクワに行って仕事をして、ベルリンに戻り、日本に来ました。そしてさらにトルコへ行ってしまいました。タウトは日本にいる間は建築の仕事が出来なかったものですから、「建築家の休日」と言う風に自嘲しましたが、タウトにとっては本当に貴重な時間だったのではないかと思われますね。ドイツにいる間は建築の仕事が忙しくて、日記を書いたり文章を書いたり出来なかったのですが、洗心亭に落ち着くことによってあれだけの著作物を残して、多くの人に影響を与えました。タウトが書いた『日本美の再発見』は現在も岩波新書から出ておりますが、私は高等学校の時に読んで、生意気にも建築の仕事とは素晴らしいなと思いまして、それで建築の道に進みました。

廣瀬：タウトの導きですね。

田中：1971年から３年間ベルリン工科大学に留学いたしました。ベルリンには非常にたくさんの有名建築があります。よく私の知人が訪ねてくるので、三時間コース、半日コース、一日コースを設定して案内しました。私の恩師、建築意匠の武基雄先生が訪ねてこられたことがあります。「ブルーノ・タウトが日本に来た時に早稲田大学と東京大学で集合住宅論の講義を受けた」と言うのです。日本には当時長屋くらいしかない時代でした。感銘を受けた武先生が、ベルリンに来られて「ブルーノ・タウトの建築物を見たい」と言われました。それはオンケルトムズヒュッテという集合住宅でした。ブルーノ・タウトはベルリンにたく



ブルーノ・タウトがスケッチした洗心亭平面図

洗心亭、六畳間から四畳半をのぞむ

歓迎会後、講堂前の石垣に上って記念写真。
タウト夫妻の右は大蟲和尚の次女・敏子、大蟲和尚の右上の男の子は先代猛志和尚の幼年時代の姿

1939年９月９日、ブルーノ・タウト夫妻歓迎会

さん建物を残していると武先生から伺いまして、それから暇があると写真を撮って歩きました。残念ながら当時のフィルム写真にはカビが生え変色してしまいました。もう一回デジタルカメラで撮り直しております。また、私がタウト作品の撮影を始めたころは、本当に汚い状態が随分多かったのですが、ベルリンの建築家ヴィンフリード・ブレンネ※4さん等のご努力で、タウトの建築物の修復作業が進んで綺麗になっていきました。

廣瀬：田中先生はダーレヴィッツにあったブルーノ・タウトの自邸にはいらっしゃいましたか。

田中：はい。何度も行きました。丸いケーキを四つに切った扇子のような格好をした住宅です。外がチャコールグレーに塗ってあり、中はえんじ色やら青や黄色など原色をつかったカラフルな住宅です。タウトは「少林山はダーレヴィッツである」と日記に書いていますね。それほど、洗心亭での生活を気に入ったのではないかと思います。そしてタウトは洗心亭にいるときに熱海の日向別邸の構想を練っていたわけです。この内装が実はダーレヴィッツの住宅とかなり共通点があるのです。すなわち色がそっくりで、洋間は海老茶、臙脂といったほうがいいか、赤っぽいワインレッドというか表現が難しいのですが、それで塗装されています。それと洋間の段々に腰をかけて相模湾を見渡すという仕掛けが、ダーレヴィッツの住宅にある段々に座って大きなガラス窓を通して森をみるような仕掛けと共通点があります。

廣瀬：ここでそういうのを思い出しながら構想を練っていったわけですね。

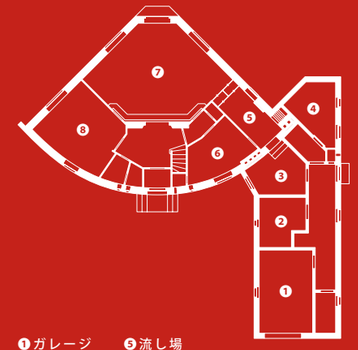
田中：そうですね。日向別邸は日本に今残っている唯一の作品で、イスタンブールにいく直前に竣工しました。だから、確かに建築家の仕事が当時できないにしろ、思いをめぐらし、本を書き、たくさんの本をここで読んでいました。驚くことに『徒然草』を読んで、鴨長明の『方丈記』を英訳からドイツ語に訳しました。ドイツ語をよく理解した上野伊三郎※5と、オーストリア人のリチ夫人に丁寧にチェックしてもらったということを書いています。共通しているのは簡素な美しさということでしょうか。以前、ドイツ文化センターのブルーノ・タウトに関する講演会へご住職さんにいらしていただきました。ブルーノ・タウトが岩波書店から『画帖桂離宮』と言う本を出しております。それに「Kunst ist Sinn」、芸術は意味だということと、簡素な美しさがいいのだと記しています。「伊勢神宮にしろ、桂離宮にしろその簡素の美しさの極みであると。一方で、日光の東照宮をキッチュといって嫌ったわけです。そして洗心亭で生活できることを非常に喜んでいました。

廣瀬：こういう場所だからこそ、ね、日本的な発想や、日本人の文化の根底にあるものを感じ取っていたところがあるのかなと思いますね。

田中：タウトは非常に鋭い観察眼を持って、ドイツにはない床の間の絵をいくつかの本に発表しています。一枚薄い間仕切りを置いて、床の間の裏側が生活の場の厠であるのは日本の素晴らしいところであると。ブルーノ・タウトは常に平和主義者でした。表と裏を当時の世の中の動きに例えて、今裏側が活動しすぎて戦争に向かっていこうとしていると批判しました。現在ではロシア領になりましたが、タウトの出身地のケーニヒスベルクから出たイマヌエル・カントという哲学者は、永久平和の本を出し「とにかく戦争は絶対にいけない」と説きました。その思想をブルーノ・タウトはずいぶん受け継いで、洗心亭にいる時にもカントの言葉をドイツ語で短冊に書いて色んな方に配りました。それが達磨寺に残っています。「Der bestirnte Himmel über mir, und das moralische Gesetz in mir」「星の輝ける大空は我が上に、道徳的規範は

ブルーノ・タウトの顕彰碑

オンケルトムズヒュッテ（1926-1931）
総住戸数1915戸、内1592戸がタウト設計による



ダーレヴィッツのブルーノ・タウト旧自邸
（1926-1927）　平面図

上：四分の一円弧状の東側外観
下：熱海の旧日向邸を思わせる居間

我が内に」といった言葉で、非常に気に入っていたようです。

廣瀬：そうですね。このお寺の本堂では北極星をお祀りしています。北極星を中心にして全ての星が運行している、それが我々の上にある。宇宙信仰といいますか、真理そのものが宇宙にゆきわたっているということを理解していたのかと思います。そして内なる道徳律というのは、仏教では仏性といって、それぞれに仏があると。カントの言葉と共通しているという喜びを言葉としてここに残したわけですよね。また、大蟲和尚は洗心亭で掛け軸を時々変えては、「玄風宇宙に弥る」教えの風が宇宙にみなぎるという、日本人でも良く分からない言葉を身振り手振りで解説したらしいですね。大蟲和尚とタウトは言葉は通じなくても、毎日二人で昼食を食べて、大声で笑っていたそうです。「何で笑っているのか不思議だ」と敏子おばさんがよく話していました。敏子は女学校を出ているのである程度は英語が出来たらしいです。

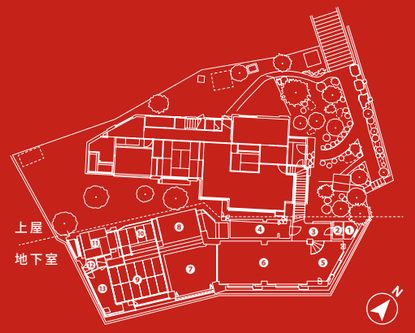
田中：現在でいう高崎女子高等学校ですね。進学校の有名女子高で、実は私の大学にもずいぶん卒業生が入学してまいります。洗心亭から見る空は非常に晴れて、いつも明るいとのことですから、おそらく星も良く見えたのだと思いますね。

廣瀬：そうですね、このあたりは空っ風が吹いて冬場は乾燥し、雨と雪が少ないです。日照時間は非常に長いところです。タウトは喘息気味なので、晩御飯はエリカがお手伝いさんと二人で外で火を起こして、いろいろ煮焚きしたらしいですね。

田中：タウトは最初に台所を見てずいぶん驚いたようですね。日記などもタウトの口述をエリカがここで書いたのですね。ブルーノ・タウトはこの机を非常に気に入って、熱海の日向別邸でも同じものを使っています。ブルーノ・タウトは1936年にここを去るわけですけれども、実はベルリンオリンピックがあった年です。日本では1940年にオリンピック開催が決まっていました。ブルーノ・タウトは他人の言葉を使ってはいますが「愚民化する」と批判しています。ヴェルナー・マルヒがベルリンに建てた競技場はナチス建築と呼ばれました。聖火リレーと称してランナーに近隣の国を走らせて地理を調査して戦争に使ったり、ハイル・ヒトラーの敬礼がオリンピックの挨拶にもなったりと、かなり影響がありました。日本が戦争に向かっていくことを嘆き、ここから浅間山が爆発したのを見て「地球が怒っている」と言っていました。

廣瀬：タウトには日本への憧れというのがドイツ時代からあったのでしょうか。

田中：そのようですね。彼が青春時代を過ごしたコリーンと言う芸術家が集まった土地がベルリンの郊外50キロほど北にあります。そこの娘たち、実はドイツにおいてきた正妻ヘドヴィックとその姉妹達を思い出したことも日記に書いてあります。コリーンでタウトはヘドヴィックと結婚しました。そこに今で言う農林省から派遣された北村という技師がいて、造林技術を勉強していたらしいのです。その人から浮世絵を勉強したり、日本文化を紹介されたりして日本に憧れるようになったと書いています。また、日本には、タウトにとって有能な秘書のようなエリカという伴侶を連れてきました。日記でも何でも婦人と書いてありますけれども、籍は入っていない伴侶で、タウトとの間にクラリッサと言う娘がいました。パウル・シェーアバルトという幻想的な詩人で、「ガラス建築」をタウトに示唆した人に憧れているがために、ブルーノ・タウトは自分の娘にもその小説の主人公の名前をつけました。クラリッサはもう亡くなりましたが、スザンネ・キーファ・タウトという娘さんがまだ居られるのです。何回か訪ねて行った折に「ぜひお祖母さんとお祖父さんが住



❶便所
❷洗面所
❸広間
❹倉庫
❺アルコーブ
❻社交室
❼洋間
❽上段
❾日本間12畳
❿上段
⓫日本間５畳半
⓬洗面所
⓭ベランダ

旧日向別邸（1935）　平面図

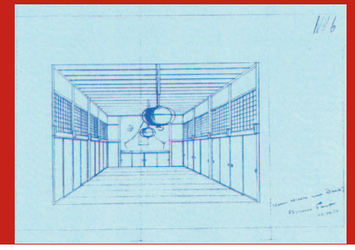
洋間から上段を望む。色彩や段を用いてることなどがタウトが自ら設計し日本へ脱出するまで住んでいたダーレヴィッツの旧自邸と酷似している

旧日向別邸　日本間から洋間、社交室を望む

日本間上段番頭台脇のライティングデスク

エリカがタウトの文書を清書した、洗心亭の折り畳みのライティングデスク

タウトの改造計画に基づいて改修された当時の大講堂（1960）



タウトの改造計画設計図の大講堂の内観透視図

少林山建築工芸学校
1934年、大講堂には建築を志す学生たちが何人も居住して、ダウトの指導に従って製図作業をする設計室と化していた。タウトは学生たちが薄暗い堂内で採光に苦労している事を考え、桂離宮・古書院の採光を参考にし、壁面を欄間にするなどの大講堂の改造設計図を書き残した。
この改造計画は後に修正箇所はあったものの採光などの点はそのまま採用され1960年に改修された。1934年12月には少林山建築工芸学校の構想案がまとまるが残念ながら実現できなかった。

デスマスク

んだ洗心亭と、遺作である日向別邸に行きたい」と言うので、何回もいらっしゃいと言ったのですが、病気になったりして今日に至っています。もう、80歳ぐらいだと思います。一度、ここの小さい達磨をお持ちしたことがありまして、意味を説明するのが非常に難しかったですね。大蟲和尚は、火災があって荒れていたこのお寺を再興に来られた方ですね。本当は別のお寺の住職になるはずだったのですが、そこには跡継ぎが出来たのでこちらに来て、現在のような立派なお寺にする礎を築きました。その時にやはり達磨を売ったそうなのです。それに対してやっぱりブルーノ・タウトはちょっと批判的でした。

廣瀬：お守りとかお札を売らなくてはいけないのは、本来の形じゃないと。

田中：ブルーノ・タウトはプロテスタントの家に生まれて、二つほど有名なプロテスタントの教会を改修しました。カトリックだったものをプロテスタントに改修して、内装工事などをしたわけです。カトリックは実は護摩などを売っており、それを宗教改革者のマルチン・ルターが批判したわけです。ドイツでは教会税があり、教会が特に商売をしなくてもお金が入ってきます。日本ではそういう仕組みが無いので、お寺は自活する方法を考えなくてはなりません。タウトは大蟲和尚について「ふんどし一本で子どもたちの散髪をしているのが非常に素晴らしい」ということも日記に書いていました。

廣瀬：人間的な面を見たわけでしょうね。多分その10歳くらいの子どもは私の父親です。人の家の子の散髪はしないでしょうから。

田中：タウトは常にルポライターだったような感じを受けますね。ブルーノ・タウトが憧れた日本人は鴨長明にしろ、松尾芭蕉にしろ、旅行しながら書いていたところで共通点があるのではないでしょうか。

廣瀬：あまり西には行ってないですね。

田中：下関から出国していますが、実際に見聞したのは大阪までが限界ですね。それから向こうには行ってないですよね。この間、工学院大学へバウハウスの学芸員であるトーステン・ブルーメ※6さんが来られて講演されました。ブルーメさんがいろいろ調べてみると、日本では工作連盟と呼んでいるヴェルクブントという団体でブルーノ・タウトが先に会員になっていて、ヴァルター・グロピウスもそこの会員になって、おそらくそこで切磋琢磨したアイディアがバウハウスとなって生まれたのではないかと講演されていました。ブルーノ・タウトが活躍した時代と、バウハウスが活躍した時代は時期的に一致しています。しかし、ブルーノ・タウトがバウハウスで講義したことはありません。おそらくグロピウスからいうと、タウトはあまりにも偉い人でバウハウスが掻きまわされてしまうのではないかと考えたわけです。実はバウハウスは工芸が得意でした。けれども、ブルーノ・タウトはドイツにいる間は建築の仕事が忙しくて、工芸はやっていなかったはずです。そしてこちら高崎に来て工芸を教えました。井上房一郎さんに資金を出してもらい、ここ高崎に日本のバウハウスを作るといった構想もかなり出来ていたみたいです。

廣瀬：そうですね。建築工芸学校を作ろうとして、縁も作ろうとしたのでしょうね。

田中：結局、資金的に成り立たないとして計画がだめになり、ブルーノ・タウトは非常に落胆します。ですからタウトはグロピウスの上を行く建築家だったと見ていいのではないでしょうか。世界の四大建築家と言うと、ル・コルビュジエとフランク・ロイド・ライト、そしてバウハウスの初代校長のグロピウスと、最後の校長のミース・ファン・デル・ローエです。バウハウスでは、有名画家のパウル・クレーやカンディンスキー、そのほかヨハネス・イッテンという画家でもあり美術教育者が教えていました。「絵を描くのは才能ではなくて教育すればある程度まで行く」というのがイッテンの考えだったようです。そんな背景が影響しあったところで、タウトが来日しました。大蟲和尚に迎えられて、気に入って100日の予定が二年二ヶ月滞在しました。一方で政治に翻弄されたということもあるでしょうね。二・二六事件が起きて、余り新聞で報道されないことを心配して、「日本はどちらへ向かっていくのであろう。やはり日本を出なくてはいかん」という気持ちが段々高まってきたのでしょう。1936年10月８日に辞去して、1936年10月15日にイスタンブールに向かって旅立ちます。

廣瀬：日記も二・二六事件の頃から一時は書かれていません。それだけショックだったのかもしれないですね。タウトが10月８日に旅立つとき、すぐこの階段の下まで迎えの車が来たそうです。しかしそこで乗らないで、わざわざ橋を渡って、たくさんの人が見送りしてくださる藤塚の街まで歩いて行ったのですね。村人たちが総出で「タウトさんバンザイ！エリカさんバンザイ！」とやったら、タウトが今度は「八幡村バンザイ！少林山バンザイ！」と言い、それでみんな感激して、拍手もして、わっと盛り上がったそうです。この近くで災害や洪水があると、タウトはそんなに裕福ではないのに、ドイツから持ってきたお金を切り崩して、お見舞いとして被害にあった全戸にブリキのバケツを配りました。「残った物は特に貧しい人に差し上げて」と地元に預けたということです。普段のお付き合いがあったからこそのお見送りなのでしょうね。

田中：やがてブルーノ・タウトが下関から関釜連絡船に乗って朝鮮を渡ってイスタンブールへ行く時も、敏子様は横浜まで泣きながら送っていったということが日記に書いてございますね。タウトはイスタンブールに行き二年ぐらいで過労のために亡くなります。ブルーノ・タウトが若くして亡くなってしまって非常に残念です。タウトの死後にエリカが途中で拘束されたりしながら、全ての遺品とデスマスクを日本に持って帰ってきて少林山に収めました。そのおかげで篠田先生が日記を翻訳されて、その他の本もかなり日本で出版されるようになりました。エリカの貢献はすごいですね。

廣瀬：エリカは高崎では水原徳原先生のところにお邪魔して生活していたようです。そして一度は敏子の嫁ぎ先の桐生まで行ったということです。

田中：後に敏子様のお嬢様が建築家になられたということは、やはり間接的にブルーノ・タウトの影響があったのではないでしょうか。

廣瀬：今は桐生でご主人と一緒に建築をされています。

田中：今日、ブルーノ・タウトとエリカが二年ほど住んでいた洗心亭で、住職と対談させて頂けるなんて本当に光栄でございました。

※１　井上房一郎（1898-1993）群馬県出身の実業家。高崎観音、群馬音楽センター、高崎哲学堂を建設した。タウトやレーモンドを支援した。
※２　水原徳言（1911-2009）タウトの唯一の弟子。井上工芸研究所にてタウト工芸作品のために働いた。タウトの死後はタウトの言説を近くで知る者として展覧会や書籍に言葉を寄せている。
※３　テオドール・フィッシャー（1862-1938）ドイチャーウェルクブントの初代会長を務めた建築家。代表作にミュンヘンの公共住宅、イェーナ大学本館、シュトゥットガルト美術館。
※４　ヴィンフリード・ブレンネ（Winfried Brenne）建築家。ベルリンにあるタウト建築の色彩の修復、ユネスコ世界遺産文化遺産登録に尽力した。
※５　上野伊三郎（1892-1972）「日本インターナショナル建築会」の会長。タウト来日時に入国ビザを手配し、タウトを全面的に支援した。
※６　トーステン・ブルーメ（Torsten Blume）バウハウスのキュレーターであり研究員。タウトが提唱する「都市のクリスタリゼーション」がバウハウスに影響を与えたことを講演した。

参考文献
田中辰明、庄子晃子『ブルーノ・タウトの工芸―ニッポンに遺したデザイン』LIXIL 出版、2014 年
田中辰明『ブルーノ・タウトと建築・芸術・社会』東海大学出版会、2014 年
田中辰明、柚木玲『建築家ブルーノ・タウト―人とその時代，建築，工芸―』オーム社、2010 年
広瀬正史『―寺報― 福 FUKU 第 31 号』少林山達磨寺、1995 年
ブルーノ・タウト『日本の家屋と生活』篠田英雄訳、岩波書店、1966 年

ベルリンの妻木頼黄と彼をめぐる人々

ー森鷗外、エンデ、ベックマン、ゼール、矢部又吉ー

中島 智章

妻木頼黄
1859-1916

代表作は横浜赤レンガ倉庫と日本橋。37歳でドイツに渡り、ベルリン工科大学校や、エンデとベックマンの事務所でヨーロッパの建築を学ぶ。

[褒賞]（工手学校再築に際し寄付）発：工手学校特撰管理長渡辺洪基、宛：妻木頼黄、明治31年2月、妻木頼黄家資料番号62（日本建築学会所蔵）（拙稿「工手学校と妻木頼黄」p.71に所載）

旧横浜正金銀行本店（1904）

森鷗外
1862-1922

本名は森林太郎。軍医であり小説家。東京大学卒業後、ドイツで衛生制度を研究するため4年を過ごす。ドイツでの恋愛を短編『舞姫』に執筆。

マリーエン通りの森鷗外記念館。森林太郎のベルリン留学中（1884-1888）の下宿が記念館となっている。

はじめに

本稿は日本建築学会編『妻木頼黄の都市と建築』※1に記した「工手学校と妻木頼黄」に基づきつつ、2016年8月25日から9月2日にかけて実施したベルリン近世近代建築調査によって得られた知見を加味して増補したものである。

妻木頼黄は1916年（大正5年）10月10日に亡くなり、日本建築学会の機関誌『建築雑誌』第359号において追悼特集が組まれた。辰野金吾、片山東熊、曾禰達三、中村達太郎、古市公威ら、当時の建築界や官界の早々たる面々が追悼記事を寄せている。この中で、幾人かが妻木の大きな業績の一つとして工手学校の会計主任としての仕事をあげており、なかでも辰野はその記事の五分の一ほどをこの件に対して当てている。というより、この記事において辰野は妻木の人格について称揚するのみで、その業績について具体的に挙げているのは、唯一、工手学校の件のみといってもよいだろう※2。

いわく、「妻木君の功績の大なる一として、工手学校の会計主任たりし事を挙げたい、会計主任として十数年従事された工手学校の経済状態が今日の様に強固になりしは全く君の功績である。君が会計主任となった時は工手学校は未だ五千円の負債を持って居った。今日は現金十数万円を基金を有するの盛境に到らしめたのである。其の間随分苦しき事情もあった様であるが、其の経営宜しきを得て今日の盛大を来したに付ては学校は勿論吾々は妻木君に感謝する所である。」

大熊喜邦による妻木の業績紹介にも工手学校との関わりが下記のように言及されている※3。

「これを建築技術者養成の方面より観察せんか、明治二十年東京工手学校の創設せらるるや其二十九年入て建築工事委員、同三十年管理委員となり、同三十三年以来博士の病革まるに至る迄理事兼会計主任とし其間また建築科教務主理として学校経営の衝に当られ、間接に将又直接に建築技術者要請に努められたる功績亦決して没す可きにあらず。」

以上のように当時の建築界の重鎮は、妻木の工手学校の教育と経営に対する貢献をその業績の中でも高く評価していたといえる。一方、辰野は追悼記事において妻木の建築作品を褒めることはなかったが、建築学会としてその作品を顕彰したことはある。すなわち、1905年（明治38年）12月、建築学会の機関誌『建築雑誌』第228号の「時報」に「我邦建築界の名誉」として次のような記事が出ている※4。

「工学博士妻木頼黄氏は今春白耳義國利栄寿博覧会の開催に際し其設計監督の下に昨夏竣成したる横浜正金銀行の設計図案を出品したるに今回同博覧会より名誉章を贈与せられたり。新築正金銀行は多くの経費と永き歳月とを要し漸く竣工したるものにして同博士は此起工前普く欧米各国の建築を視察し其卓絶の手腕と考察の結果とを綜合して該事業を速成したるものなれば其結構の完備は優に名誉章を値せしものならむ。我邦建築家にして万国博覧会より名誉章を得たるは実に今回を以て嚆矢とするものにして是れ只に同博士一身上の名誉なるのみならず我國建築の進歩発達を世界に表明したるものと云ひて可なり。」

（筆者が句点2カ所を補った）

「白耳義國利栄寿博覧会」とは、1905年にベルギーのフランス語圏の中心都市リエージュ（Liège、当時はLiégeの綴りもみられた）で開催された「1905年万国国際博覧会」（l'Exposition universelle et internationale de 1905）のことである。この件については、『建築雑誌』第359号の矢橋賢吉による妻木追悼記事においても、「博士の技術を具体化した代表的製作を求むれば、何といっても正金銀行の建築を第一に推さねばなるまい。其設計を白國『リエージュ』の博覧会に出品して『ゴールドメダル』を授与されたのは洵に当然な名誉といふべきである」というふうに称揚されている※5。

これらの記事で言及されているのは、1969年（昭和44年）指定の重要文化財建造物「旧横浜正金銀行本店本館」（現在は神奈川県立歴史博物館）である※6。これは妻木の代表作のみならず、わが国における「ドイツ派」古典主義建築の傑作といわれている※7。

妻木は1886年、官庁建築の計画に携わる臨時建築局技師としてベルリンに赴き、1889年に帰国している。この間、ベルリンの建築家ヘルマン・グスタフ・ルイ・エンデ（Hermann Gustav Louis ENDE, 1829-1907）、および、ヴィルヘルム・ベックマン（Wilhelm Böckmann, 1832-1902）らと仕事をしており、また、同時期には森鷗外もベルリンに滞在していたことから、その知遇を得たはずである。

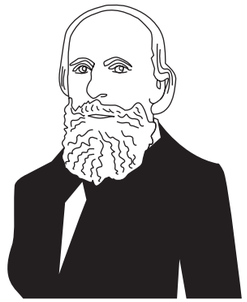
本稿では、工手学校と妻木の関係に焦点を当てて、工手学校において彼が果たした役割や工手学校での彼の弟子について紹介する。また、妻木が矢部をベルリンに送るのに活用した人脈について触れていくこととする。妻木の渡欧は工手学校の設立準備事業の開始に少々先立つゆえ、本稿では妻木の旅立ちから始める。

1. 妻木のベルリン滞在と当地での人脈

妻木頼黄は、1859年（安政6年）1月21日、旗本の長男として生まれた※8。1876年から1877年にかけて渡米し、帰国後に工部大学校造家学科に第6期生で入学したが、中途で退学し、1882年にコーネル大学の建築学科に入学、1884年6月19日に卒業した。1885年9月12日に帰国して、11月17日に東京府御用掛に任じられている。妻木がドイツに渡ったのはその翌年、1886年のことだった。官庁建築の計画に携わる臨時建築局技師として渡辺譲、河合浩蔵やその他の建築関係の技術者14、5名とともにベルリンに赴き、1889年に帰国している。この間、妻木は後に裁判所や司法省の建築を設計したエンデとベックマンの事務所で実務に携わっており、森鷗外とも接触があったと考えられる。

この時に関わったエンデとベックマンは※9、ともにベルリンのバウアカデミー（Bauakademie）で建築教育を受けており、エンデが1851年、ベックマンが1854年に入学している。したがって、エンデはベックマンの3年先輩にあたる。1860年に共同で建築設計事務所を開設した。ベルリンでは最初期の「建築設計事務所」の一つである。そしてベルリンと、ベックマンの生地エルバーフェルトを中心に住宅建築などを建設した。現存する作品としては※10、ベルリ

ヘルマン・グスタフ・ルイ・エンデ
1829-1907



ベルリンで最初期の建築設計事務所を開設した建築家。代表作はドイツユニオン銀行やベルリン動物園、日本では司法省や最高裁。1877 年にベルリン工科大学校建築学科教授。

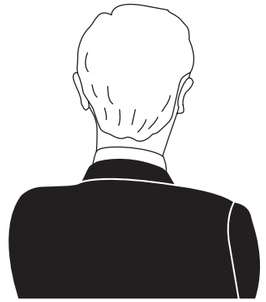
旧ベックマン自邸（1872）

ヴィルヘルム・ベックマン
1832-1902

エンデの後輩であり、共に明治時代の政府アドバイザーを務めた。1887 年にエンデ＆ベックマン事務所は日本政府と契約し、官庁集中計画を立てた。

旧司法省庁舎（1895）　エンデ＆ベックマン事務所

リヒャルト・ゼール
1854-1922



エンデ＆ベックマン事務所の所員であり建築家。代表作は司法省と最高裁の他、同志社大学クラーク記念館、千葉教会、ケーニヒスベルク市庁舎。ゼールの容姿は本誌では未確認。

同志社大学クラーク記念館（1893）

ン動物園のアンティロープ舎、旧フォン・デア・ハイト邸、旧ベックマン自邸、ポツダムの旧ベックマン別邸、および、別の旧ベックマン別邸付属屋、東京の旧司法省庁舎がある。

エンデは1829年３月24日、ランツベルクで生まれた。1874年に芸術アカデミー（Akademie der Küenste）会員となり、1895年には学長に就任している。一方、1877年にはベルリン工科大学校（Technische Hochschule Berlin）の教授となり、1897年まで同職にあった。後に英国王立建築家協会（R.I.B.A., Royal Institute of British Architects）の名誉会員となり、1891年にプロイセン勲功賞が授けられた。また工科大学校初の博士号が授与されている。1907年に没した。ベックマンの方は1832年１月29日、エルバーフェルト（現在のヴッパータル）で生まれた。1869年、ベルリンの建築家協会会長となり、当地における建築家の職能の確立に努めたという。時期は不詳だが、母校バウアカデミーの教授職にあったこともある。1902年には枢密建築監督官（Geheimer Baurat）となったが、同年没している。

エンデとベックマンが活躍した時代のベルリンでは、1871年に成立したドイツ帝国の首都として、それにふさわしい公共建築群が次々に建設されていった。代表的なものとしては、国会議事堂（Reichstagsgebäude 1884-94）があり、博物館島（Museumsinsel）に建つ５棟の博物館のうちの２棟、ナツィオナルガレリー(Nationalgalerie 1866)、ボーデムゼウム(Bode Museum 1897－1904)も挙げられるだろう。少し後になるがベルリン大聖堂（Berliner Dom 1905－）もドイツ帝国時代の代表的な様式建築である。エンデとベックマンはそれらのような大規模公共建築に携わってはおらず、当時のベルリンを代表する建築家とはいえないかもしれないが、民間にあってプライベートな建築設計事務所という職能を確立するのに大いに力を振るい、教育の世界でも活躍していた。妻木がベルリンに滞在した1886年から1889年までの時期も、エンデはベルリン工科大学校の教授であり、それゆえ、妻木らと同校との関係も結ばれたと思われる。

２．工手学校設立の経緯と築地校舎の炎上

一方、妻木のベルリン滞在２年目にあたる1887年の10月31日、「工手学校創立協議会」が開催され、工手学校が私立の夜間専門学校として創立されることとなった。1938年、「工学院」と改称し、1949年には新制大学「工学院大学」となって現在に至っている[※11]。設立の音頭をとったのは、元東京府知事であり、ときの帝国大学総長だった渡辺洪基だった。帝国大学工科大学造家学科・教授の辰野金吾もその趣旨に賛同して創設メンバーに名を連ねていた。1888年２月６日、渡辺を特撰管理長として開校し、１年半の課程を経て1889年７月に最初の卒業生121名を出すこととなった。下に引用した工手学校設立趣旨にみられるように、帝国大学出の技師たちと現場の職人たちをつなぐ中堅技術者「工手」を養成するのがその目的だった[※12]。

「工業の隆盛を謀るには学術の応用極めて緊要なり。現今我国の工業梢々隆盛の機運に向かひ鉄道敷設、道路開鑿、鉱山採掘、其他造船、建築、電気、応用化学等数多の事業国内各所に興起し是等の事業に必須なる技術者を要すること頗る多きに至りしは畢竟工業は学術の応用を俟て始て完良の結果を得へきか故なり。而るに今我国の有様にては技術者養成の黌塾甚た尠く一二官立の学校に於ては高尚なる技術を養成するに充分なるも各専門技師の補助たるへき工手を養成する学校に至りては亦一校の設置あるなし。故に工業家に於ては補助工手の供給なきに苦み勢ひ学術応用の思想に乏しき者を以て彼の高尚なる技師の補助と為さしめるを得す。為に技師は使役に不便を感するのみならす結局工業家の不利益を来すものにて即ち我国工業の進歩に一大障碍を与ふるものと云ふへし。是れ余輩の最も遺憾とする所なり。因て茲に一の工手学校を設立し学科を土木、機械、電工、建築、造船、採鉱、冶金、応用化学の八学科に分ち世間有志の子弟又は昼間各工場に使雇せらるる工手職工等に就学を許し授業の方法は専ら速成を旨とし所謂補助工手を養成し以て我国工業の隆盛を企図す。聊か記して本校設立の趣旨を陳ると云爾。明治二十一年二月企画人識」

（カタカナをひらがなに、旧字を新字に改め、句点を補った）

工手学校は私立だったが、帝国大学工科大学の関係者がその設立に多く参加していたため、官立学校の趣が強かった。実際、工手学校造家学科（1903年９月に建築学科に改称）の卒業式と卒業生名簿は、帝国大学工科大学建築学科のそれと同様、建築学会（1886年の創立時には造家学会、現日本建築学会）の機関誌『建築雑誌』の「時報」で報告される対象だった。たとえば1900年２月の『建築雑誌』第158号の「時報」では造家学科の卒業生33名の名を報告している[※13]。教員としては「家屋構造」と「建築材料」の長野宇平治や「家屋構造」の矢橋賢吉の名がみえる。矢橋は1895年に帝国大学工科大学造家学科を卒業し、1897年から1905年まで工手学校造家学科・教授を務めた。

このように順風満帆な歩みを始めたといってよい工手学校だったが、1897年２月９日に第14回卒業式を行ったその夜に校舎が焼失する事態となった。明治天皇よりの御下賜金や各所からの寄付金により校舎は再建された。

３．工手学校における妻木頼黄

工手学校の歴史に妻木が登場するのはこの時である。再建にあたり妻木は辰野や片山東熊とともにその建築工事委員となり、1898年には朝倉精一とともに校舎増築の建築委員になっている。校舎再築の際には妻木自身も寄付を行った[※14]。また、同年にはすでに辰野とともに教務主理に名を連ねており、辰野は1904年２月まで、妻木は1908年８月まで務めた。教務主理とは、各学科の主任教授、学科長のようなものであり、各学科の教育内容に責任を持つ立場だった。

妻木、辰野が教務主理だった1898年12月15日、工手学校は東京区裁判所に財団法人として登記され、1899年１月、工手学校管理規定が定められた。さらに同年９月、各学科教授細目を教務主理として裁定することとなっている。同年12月には渡米する卒業生に英文証明書を出すことになった。また、1903年９月には造家学科を建築学科と改称している。これは、1894年６月に帝国大学工科大学教授の伊東忠太が『建築雑誌』第90号に「『アーキテクチュール』の本義を論して其譯字を撰定し我か造家學會の改名を望む」を発表し[※15]、1897年に造家学会が建築学会と改称され、妻木、辰野、片山に縁ある東京帝国大学工科大学（同年に「東京」を冠する名称に改められた）造家学科も建築学科となったのを受けた処置だろう。

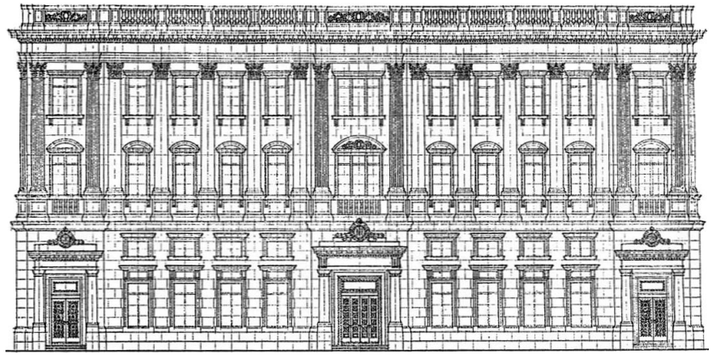
ところで、妻木は工部大学校に入学しながら中途退学してコーネル大学に進んでいる。したがって、工部大学校造家学科の第１期生である辰野は同期生の片山とは旧知の仲だったが、当初、妻木とは関係が薄く、その知遇を得たのは渡辺を通じてだったという。先に紹介した辰野の妻木追悼記事によると、渡辺が東京府知事だったときに帰国した妻木が東京府の御用掛に就任していたのである。

1900年７月、辰野は工手学校の会計主任を辞任し、後任には妻木が就任した。先に引用した辰野の追悼記事にはまるで他人事のように「君が会計主任となった時は工手学校は未だ五千円の負債を持って居った」と述べているが、じつは妻木の前任者は辰野だったのである。辰野は火災から１年半ほどのちの1897年７月から会計主任を勤めていた。３年後に妻木にバトンタッチした後も洋行中の三好晋六郎校長に代わる校長代理を務め、教務主理としても妻木と苦楽をともにしたはずである。

妻木の工手学校との関わりは経営面でも深くなっていった。1901年５月24日に渡辺管理長が没したが、1903年９月

矢部又吉
1888-1941

工手学校にて妻木に学び、卒業後ドイツでゼールに師事。帰国後、東京三菱銀行横浜中央支店ビルや川崎銀行などドイツ風の銀行建築を極める。



川崎銀行本店立面図
「川崎銀行」（川崎銀行本店の平面図 6 面、立面図 1 面、正面詳細 1 面、竣工写真 4 枚）『建築雑誌』41(500)、1927 年 9 月より

川崎銀行本店のピラスター柱礎に対し、
新たに円柱を継いでいる。

旧川崎銀行横浜支店（1922）

には三好とともに「故渡辺洪基君奨学資金」の発起人総代となり、三好と合わせて「公債及債券額面金三千二十円」を寄贈している。翌年12月には渡辺特待生規定が設けられ、さらに1905年７月に第１回渡辺特待生が選抜された。奨学金に関しては妻木の没後の1917年に妻木特待生制度も設立されている。

以上のように、妻木は工部大学校造家学科の先輩である辰野、片山とともに、工手学校の教育と経営の両面で大きく貢献した。辰野が妻木の追悼記事で工手学校の会計主任としての業績を高く評価しているのは、国会議事堂の件では鋭く対立しながらも（こちらの方はまったく触れていない）、工手学校の運営で苦楽をともにしたことを偲んでのことだろうか。

４．工手学校における妻木の弟子・矢部又吉

工手学校では、妻木の薫陶を受けた「弟子」といってもよい人々がそこから巣立っていった。たとえば、原虎之助、大高精、河口庄一といった人々がいる。とりわけ、1906年から５年間、「師匠」と同じくベルリン・シャルロッテンブルクの工科大学校建築学科に留学した矢部又吉は特筆に値するだろう。矢部が在籍していた記録は現在のベルリン工科大学には残されていない。第二次世界大戦の独ソ戦でベルリンが壊滅した時に焼失したと思われる。矢部は学業だけではなく、かつて妻木とともにエンデとベックマンの事務所で働いていたリヒャルト・ゼール（Richard Seel 1854-1922）の事務所で実務も経験している。ゼールは、エンデとベックマンが1888年に東京の官庁集中計画を引き受けた際、来日し、この事業が頓挫した後も日本に留まって建築設計事務所を営んでいたが、1903年にゲオルク・デラランデ（Georg Delalande 1872-1914）に後を託してドイツに帰国していた。矢部の渡独はその３年後である。ベルリン・ツォー駅近くの当時のカントシュトラーセ161/4に居住していたことが知られる[※16]。1909年に同校を卒業し帰国した。この経歴から、妻木に始まるいわゆる「ドイツ派」に連なる建築家として知られている。

帰国後、矢部は妻を通じた縁で川崎銀行系の仕事を多く手がけた。とはいえ、歴史的建造物としては「まともな状態」で現存している作品は多くはない。1927年に竣工した川崎銀行本店は代表作といってもよいだろう。しかし1986年に取り壊され、現在のスターツ日本橋ビルにディテールが少々利用されているだけである。それもピラスターに円柱を継ぐという、およそ西洋建築史の知識を疑われるような処置が施されている。厚みのあるコリント式ジャイアント・オーダーによるピラスターが立ち並んだ、妻木の横浜正金銀行本店のそれを思わせる細部の立体性の豊かな作品で、当時の様式の捉え方としてはヨーロッパ復興式、すなわち、広い意味での「ルネサンス」なのだろうが、今ではネオ・バロック様式と評したほうがよいだろう。エンタシスのついたコリント式ピラスターの力強い輪郭は、ネオ・バロックの中でもベルリン大聖堂や帝国議会議事堂のようなドイツのネオ・バロックに連なるのではないだろうか。この強力な力を放出していたファサードの四分の一ほどは博物館明治村に復元された。

1922年に竣工した川崎銀行横浜支店の方はもう少しまとまった残り方である。1989年（平成元年）、内部は消失してガラスのカーテンウォールを備えた高層ビルとなったものの、正面ファサードはほぼ保たれた（現日本興亜火災横浜ビル）。奇しくもその東隣には妻木の代表作・横浜正金銀行本店が建っている（現神奈川県立歴史博物館）。こちらの方はルネサンス建築に特徴的な３層構成となっており、１層目のルスティカ仕上げともども、16世紀イタリアのパラッツォ建築（都市の富裕な人々の邸宅）を思わせる。 一方、保存状態が比較的良いものとしては、1999年に登録有形文化財となった川崎貯蓄銀行福島出張所（現ミナミ株式会社）がある。道路に対して緩やかな円弧を描くように突出するファサードが特徴で、まさにネオ・バロック様式といってよいだろう。

一方、1927年に建設された旧川崎銀行千葉支店は1994年に千葉市立美術館内にいわば「鞘堂」のような形で取り込まれて保存されている。こちらの方はイオニア式のハーフ・コラムをまとったデザインであり、当時の様式感においてはヨーロッパ復興式ということだろうが、新古典主義といった方が現代では通りがよいだろう。

以上の作品からはイタリア風ネオ・ルネサンス、ドイツ風ネオ・バロックや新古典主義などの様式を十全に駆使した様が見て取れ、当時の建築家の中でも古典主義様式のデザインに関しては群を抜く技量を持った建築家の一人だと評することができる。その背景として、第一世代の建築家の中では曾禰達三とともに古典主義デザインについて最も通じていた妻木の教育と影響が指摘できるだろう。

参考文献
※ 1　中島智章「工手学校と妻木頼黄」『妻木頼黄の都市と建築』日本建築学会編 pp.68-74、2014 年
※ 2　中島智章「工手学校と妻木頼黄」『妻木頼黄の都市と建築』日本建築学会編、p.71、2014 年
※ 3　大熊喜邦、辰野金吾、片山東熊、會禰達蔵、中村達太郎、「雑記　妻木博士を弔ふ」『妻木頼黄の都市と建築』日本建築学会編、pp.68-74、2014 年 12 月
※ 4　大熊喜邦、辰野金吾、片山東熊、會禰達蔵、中村達太郎古市公威、石黒五十二、矢橋賢吉、小林金平「雑記　妻木博士を弔ふ」『建築雑誌』30(359)、pp.1-20、p.7、1915 年 12 月
※ 5　大熊喜邦、辰野金吾、片山東熊、會禰達蔵、中村達太郎古市公威、石黒五十二、矢橋賢吉、小林金平「雑記　妻木博士を弔ふ」『建築雑誌』30(359)、pp.1-20、p.5、1915 年 12 月
※ 6　建築学会編「時報」『建築雑誌』19(228)、pp.842-852、p.848、1905 年 12 月
※ 7　大熊喜邦、辰野金吾、片川東熊、會禰達蔵、中村達太郎、古市公威、石黒五十二、矢橋賢吉、小林金平「妻木博士を弔ふ」『建築雑誌』30(359)、pp.1-20、p.16、1915 年 12 月
※ 8　文化庁『国指定文化財等データベース』「旧横浜正金銀行本店本館」http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index_pc.html（2017 年 2 月 6 日閲覧）
※ 9　藤森照信『日本の近代建築〈下 大正・昭和篇〉』、岩波書店、1993 年
※ 10　堀勇良『「妻木頼黄について」『妻木頼黄の都市と建築』pp.6-26。堀勇良「妻木頼黄に関する 9 断章」『明治建築をつくった人々その 4　妻木頼黄と臨時建築局　国会議事堂への系譜』博物館明治村編、1990 年
※ 11　堀内正昭「エンデ・ベックマンの経歴について」『日本建築学会関東支部研究報告集』、pp.269-272、1985 年
※ 12　堀内正昭『明治のお雇い建築家エンデ＆ベックマン』、井上書院、1989 年、堀内正昭「ドイツにおけるエンデ＆ベックマンの建築遺構について」『日本建築学会大会学術講演梗概集』、pp.481-482、1995 年 8 月
※ 13　茅原健『工手学校― 旧幕臣たちの技術者教育』、中央公論新社、2007 年。工学院大学学園百二十五年史編纂委員会編『工学院大学学園百二十五年史 - 工手学校から受け継ぐ実学教育の伝統』、中央公論新社、2012 年。NICHE 編『工手学校― 日本の近代建築を支えた建築家の系譜― 工学院大学』彰国社、2012 年。工手学校編『工手学校一覧』pp.1-2、1894 年。工手学校編『工手学校一覧』pp.3-4、1908 年
建築学会編「時報」『建築雑紙』14(158)、pp.51-55、1900 年 2 月、pp.54-55
※ 14　妻木頼黄家資料番号 62「褒状」
※ 15　伊東忠太「『アーキテクチュール』の本義を論して其譯字を撰定し我か造家學會の改名を望む」『建築雑誌』8(90)、pp.195-197、1894 年 6 月
※ 16　Rudolf Hartmann、*Japanische Studenten an deutschen Universitäten und Hochschulen 1868-1914*、Berlin、2005 年、p.215

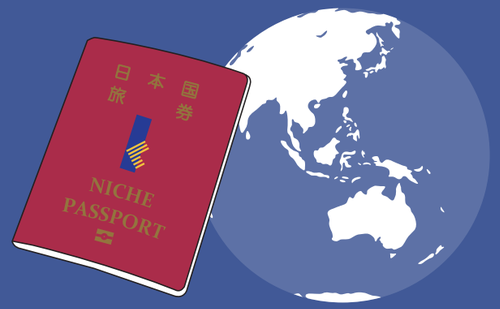
中島 智章　Tomoaki Nakashima

1993　東京大学工学部建築学科 卒業
1995　東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程 修了
2001　東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程 修了
2001-2002　日本学術振興会特別研究員（PD）
2002-2005　工学院大学工学部建築学科講師（専任）
2005　工学院大学工学部建築学科助教授
2007　工学院大学工学部建築学科准教授
2011　工学院大学建築学部建築デザイン学科准教授

NICHE PASSPORT

海外建築レポート

若者よ、旅に出でよ！
工学院大学建築学部同窓会では、在学生の海外研修をサポートしている。2016年度の海外渡航奨励金制度を利用した学生たちからレポートが届いた。



Flight 01
February 2016

自然環境を巧みに享受するオーストラリアの景観都市
加藤 慶

2月4日　成田発
2月5日　メルボルン着　駅構内散策
2月6日　シティサークルトラム、ブロックアーケード
2月7日　メルボルン王立植物園、ビクトリア国立美術館
2月8日　メルボルン大学、メルボルンセントパトリック大聖堂
2月9日　シドニーへ移動、オペラハウス、ハーバーブリッジ
2月10日　ダーリンハーバー、チャイナタウン
2月11日　ワトソンズベイ、ボンダイビーチ
2月12日　王立植物園、シドニー大学
2月13日　バルメイン、メルボルンへ移動
2月14日　メルボルンから成田着

Flight 02
March 2016

ＮＹのオープンスペースで体験する日常と非日常
小林 千鶴

3月1日　羽田発
3月2日　Paley Park, High Line
3月3日　Noguchi Museum
3月4日　Central Park, MoMA
3月5日　Chelsea Market, High Line
3月6日　Harlem, Central Park
3月7日　Roosevelt Island
3月8日　Teardrop Park, 9/11 Memorial Plaza
3月9日　High Line, Whitney Museum
3月10日　MoMa PS1, Grand Central Station,
3月11日　Bryant Park
3月12日　Colombus Circle, Hearst Tower
3月13日　Union Square
3月14日　Jacob Javits Plaza
3月15日　New Museum
3月16日　Hunters Point South Park
3月17日　ボストンへ移動
3月18日　Isabella Stewart Gardner Museum
3月19日　Harvard University, GSDハーバード大学デザイン大学院
3月20日　Boston Public Garden, North End Park
3月21日　Levinson Plaza, Boston Common
3月22日　ニューヨークへ移動
3月23日　Roosevelt Island, Bronx Botanical Garden
3月24日　Guggenheim Museum, Central Park
3月25日　American Museum of Natural History
3月26日　Cooper Hewitt Smithsonian Design Museum
3月27日　Lowline Lab, 9/11 Memorial Plaza
3月28日　High Line, Roosevelt Island, Rockefeller Center
3月29日　MoMA Garden, Staten Island, 9/11 Memorial Plaza
3月30日　ジョン・F・ケネディ国際空港発
3月31日　成田空港着

Flight 03
March 2016

バルセロナ建築の新旧のレイヤーを学ぶ
此木 駿

3月7日　成田発、バルセロナ着
3月10日　モンジュイックの丘周辺の建築
3月11日　22@地区周辺の建築、R+Bアーキテクツ見学
3月12日　エンリック・ミラーレス建築作品
3月14日　EMBT見学、旧市街
3月15日　BACセミナー
3月16日　サグラダファミリア
3月19日　RCR見学、RCR建築作品
3月28日　BACセミナー
3月29日　リチャード・ボーフィル作品
3月31日　最終プレゼンテーション
4月1日　バルセロナ発
4月2日　成田着

Flight 04
March 2016

スペイン・フランス・ドイツで感じた本物の体験
後藤 幹彦

3月12日　成田発　バルセロナ着
3月13-14日　バルセロナにてサグラダ・ファミリア、カサ・ミラ、カサ・バトリョ、サンタ・エウラリア大聖堂
3月15日　リヨンにてラ・トゥーレット修道院（宿泊）
3月16-17日　リヨンにてサヴォア邸、パリにてノートルダム大聖堂、凱旋門、エッフェル塔
3月18日　フランクフルト
3月19日　ワイマールにてバウハウス博物館
3月20日　デッサウにてバウハウス校舎、バウハウス住宅建築
3月21-22日　ベルリンにてフィルハーモニー、ソニーセンター、ブランデンブルク門
3月23日　ベルリン発
3月24日　成田着

Flight 05
August 2016

シアトルにてまちの資源を読み解く
深田 隼人

8月17日　成田発　シアトル着
8月18日　シアトル中央図書館、ガス・ワークス・パーク、EMP Museum、スペースニードル
8月19日　オリンピック彫刻公園、シアトル市内の公園
8月20日　フーコス球場、シアトル市内散策
8月21日　シアトル発　ポートランド着　パイオニア・コートハウススクエア
8月22日　ピトック部　リビルディングセンター
8月23日　市内散策
8月24日　ポートランド発　サンフランシスコ着
8月25日　サンフランシスコ近代美術館、フィッシャーマンズワーフ
8月26日　ヨセミテ国立公園
8月27日　ゴールデンゲートブリッジ、ゴールデンゲートパーク、サンフランシスコ科学アカデミー、デヤング美術館
8月28日　サンフランシスコ市内散策
8月29日　サンフランシスコ発
8月30日　成田着

Flight 06
August 2016

人と建築と歴史が散りばめられた U.S.A
崎山 涼

8月26日　成田発　ニューヨーク着
8月27日　グッゲンハイム美術館、ホイットニー美術館、ニューヨーク近代美術館
8月28日 クライスラービルディング、ニューミュージアム、グランウンドゼロ
8月29日　セントラルパーク、シーグラムビル、ハイライン
8月30日　チェルシー100 11thアヴェニュー、フラットアイアン
8月31日　ニューヨーク発　ポートランド着
9月1日　スペースニードル、エクスペリエンス・ミュージック・プロジェクト
9月2日　シアトル美術館、パイク・プレイス・マーケット
9月3日　ダウンタウン、ファーマーズマーケット
9月4日　ポートランド発　サンフランシスコ着
9月5日　サンフランシスコ街並み、ゴールデンゲートブリッジ
9月6日　デ・ヤング美術館、カリフォルニア・アカデミー・オブ・サイエンス
9月7日　セント・メアリー教会、ジューイッシュ現代美術館
9月8日　ドミナス・ワイナリー、アルカトラズ島
9月9日　サンフランシスコ発
9月10日　成田着

NICHE PASSPORT

自然環境を巧みに享受するオーストラリアの景観都市

加藤 慶

ヤラ川から眺めるメルボルンの街並み

ランドスケープの先駆者

豪州オーストラリアと言えば、ランドスケープの先駆者ともされるほどの自然環境豊かな国である。大自然が広がるオーストラリアはわずか200年ほどの趨勢しかない。オーストラリアでは、都市が作られる前からランドスケープの概念や景観に対する意識が存在したため、現在のような景観都市が誕生した。私はこのような先進国から、自然環境が与える住みやすいまちづくりを知るために、オーストラリアの中でも最も住みやすい都市とされるメルボルンとシドニーを訪れた。

外部空間を好む

外部空間で過ごす習慣はオーストラリアの生活に根付いており、レストランやカフェでの食事や休息は外で嗜むことが主流のようだ。特に当渡航期間は天気が良かったことから、殆どの人々が外出を試みていたようだ。都市部や郊外住宅地を問わずあらゆる場所に緑地空間が施されているため、更なる外部空間に対する嗜好を高めているように感じた。また、暑さ対策としての噴霧や日照を考慮した木陰の確保などの自然環境の配慮があり、D/H（対象物との水平距離をその対象物の高さで除した値）を大きくすることで高い安全性や開放感を創出するなど、まちづくりや安心安全に対する配慮も抜かりがなく、住みやすい都市として選出されるだけのことはあると感じた。

路地裏でも外部空間を好む

静まらない喧騒

都市部でのメルボルン、シドニーはとにかく静まり返ることがない。人々は昼には緑豊かな都市環境を見つめ、夜には涼しくなった外部空間でお酒を飲みながら夜景を楽しんでいる。深夜になっても都市部が静まり返ることはなく、若者が集まってダンスを披露したり、パフォーマーが公共の場で研鑽を積んだりしていた。これも外部空間に対する志向が影響しており、少なからず外で一時的に座ったり楽しんだりする場所が数多くあることから、このような喧騒を生んでいるように思える。住みやすい都市には自由なライフスタイルが確かに築かれているように感じた。

旅を通じて

オーストラリアは日本と比べて経済力が高く、それ故に自由なライフスタイルを各々で享受できているが、しかしながら日本では不可能というわけではない。緑や環境に考慮したランドスケープの美的価値を創出することができれば、日本も自由で自然環境に調和したまちづくりを形成することができるのではないか、と今回の渡航を通じて感じた。その因果を見出すには歴史文化や生活習慣の相違、変遷や趨勢、ひいてはランドスケープの知識を積まなくてはならないが、まずは今回は一選出者として初めての海外渡航へ行けたことを嬉しく思う。ランドスケープの先進国として、この先に機会があればもう一度訪れてみたい。

バーベキュー設備が無料で借りられる緑地空間

夜間のシドニーオペラハウス

緑道でセットバックされた郊外住宅地

加藤 慶 Kei Kato

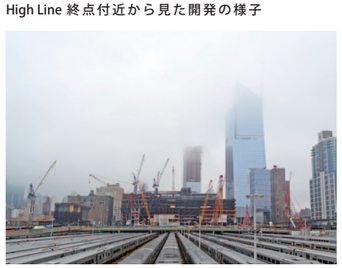
1994 東京都生まれ
2013 千葉県立千葉北高等学校 卒業
工学院大学建築学部建築総合学科 入学
2015 工学院大学建築学部まちづくり学科 転科
2017 工学院大学建築学部まちづくり学科（下田研究室）卒業
住友林業緑化株式会社 入社
将来の夢 世界中の人々に快適な緑を提供したい

休日の朝に Brooklyn Bridge Park でスポーツをする子どもたち

NICHE PASSPORT

ＮＹのオープンスペースで体験する日常と非日常

小林 千鶴



High Line 終点付近から見た開発の様子

働く・住まう・観る

今回の旅の目的は、世界のランドスケープを牽引するアメリカのNYとボストンで、定点観測的にランドスケープと建築の作品に触れることだった。そのため同じ場所へ、平日と休日、朝と昼と夜など何度も何度も足を運んだ。ここに紹介する他にも渡航奨励金制度によって、ハーバード大学のスタジオ見学、イエール大学で研究をされている方との面会など貴重な体験ができたことを深く感謝したい。

High Lineで有名なChelsea地区では、ビスケットで有名なナビスコ工場が郊外に移転し使われなくなっていた工場をリノベーションし、生鮮食品販売、カフェ、アパレルまでそろったショッピングエリアになっている。カメラを持った旅行者の横で、今夜の夕飯用だろうか、生肉を買っていくおばさんが。旅行者も生活者も入り交じる空間であったことは驚きであった。

ウォーターフロント空間の豊かさ

自分の足で歩いてみるまではNYの水辺空間の豊富さは実感できなかった。マンハッタンの東西へは女性の足でも簡単に横断できてしまうほど短い。そのためマンハッタンの周縁は、水を眺めながら憩うことのできるオープンスペースがたくさん存在し、人々が思い思いに使っていた。

ハドソン川に面したBattery Parkを歩いていると、サラリーマンが仕事の電話をしていた。その視線の先にはビルではなく水があり、船が走っていた。黒人のベビーシッターの女性たちは白人の子どもを乗せたベビーカーを押しながらおしゃべりを楽しみ、その横をランニングウェアに身を包んだ人が颯爽と走り去っていった。どこのお店でもテイクアウト可能な食べ物や飲み物があり、さらに信号機ごとに大きなゴミ箱があるので、外での軽食やその後のゴミの処理には事欠かない。また、柵や塀などが低く、強い色を使った余計な看板などがないために、水との距離感は非常に近い。水辺の方向を向くと、空がとても大きく感じられ、背後の過密な超高層ビルとのコントラストは面白いものであった。

追悼と日常の空間9/11 Memorial Plaza

2001年９月11日、偶然にもこの日はわたしの９歳の誕生日であった。翌朝、どこのチャンネルでも地球の反対側で起こった衝撃的な事件が放送されていたことを覚えている。9/11 Memorial Plazaは1993年と2001年に起こったワールドトレードセンターへの攻撃事件の犠牲者への追悼と敬意を払う場として完成。Poolと呼ばれる２つの四角い穴の底へ向かって、四方から滝のように大量の水が流れ落ちる。このPoolは、ワールドトレードセンターのフットプリントをそのまま模ったものである。あまりにも巨大なPoolを上から眺めていると、激しい水の音や水しぶきを受け、視覚・聴覚・触覚全てを総動員してこの空間を感じていることに気がつく。Poolの四方は高さ1300mm程度の金属のプレートが回してあり、そこには犠牲者の名前が彫り込まれていた。Poolに背を向ければ、子どもたちが走り回り、昼休憩にランチを食べる人で賑わう広場として機能していた。

こういった日常も非日常も包み込んで存在する屋外空間がある都市は、力強く、訪れる人々を魅了し続けるのだと感じた。

Roosevelt Island Tram から Manhattan を望む

Roosevelt Island の South Point Park の夕方

9/11 Memorial Plaza "Pool"

小林 千鶴　Chizuru Kobayashi

1992　東京都生まれ
2011　桐朋女子高等学校 卒業
　　日本女子大学家政学部住居学科居住環境デザイン専攻 入学
2015　日本女子大学家政学部住居学科居住環境デザイン専攻（篠原聡子研究室）卒業
2016　工学院大学大学院 工学研究科 建築学専攻（下田明宏研究室）
将来の夢　居心地のいい空間の作り手と伝え手になりたい

NICHE PASSPORT

バルセロナ建築の新旧のレイヤーを学ぶ

此木 駿

日本人学生とアメリカ人学生の懇親会。お互いの大学について情報交換をした。

バルセロナの街並み。古くから残されている住宅が多く見られる。

BAC 建築留学春季コース

私はバルセロナ・アーキテクチャー・センター（BAC）が主催する建築留学春季コースに2016年３月10日から31日まで参加した。このプログラムには、日本国内の様々な大学や大学院の学生が参加し、今年度で五度目の開催となり、過去最多の人数の42名の学生が集まった。

そして、バルセロナにある歴史的建造物や現代建築、さらに現地の有名事務所を見学し、約三週間の期間を通じてそこで学んだことを設計課題に沿って発表した。

「新旧のレイヤー」

バルセロナは、とてもコンパクトな街であり、そこには魅力的な建築が多く存在する。サグラダ・ファミリアやバルセロナパビリオンなどの世界的に有名な建築の他、様々な歴史的建造物が残されている。中でも旧市街には、中世から残されている住宅も多い。プログラムで見学した三つの事務所では、歴史的価値のある住宅や、廃墟となっていた工場などをコンバージョンし、事務所として利用していた。

そして、その事務所内には古くから残されているレンガや木材に、鉄やコンクリートといった新しい要素やデザインが加えられていた。そこには「レイヤー」というテーマが共通することに気づいた。その新旧のレイヤーは設計課題においても要求されていた。つまり、それがバルセロナの建築のコンバージョンにおいて最低必要条件ではないかと感じた。

この留学で学んだこと

私は、このプログラムで建築の知識だけでなく、海外生活を経験することができた。現在、修士論文で台湾に残された日本統治時代の建築の再活用に関して研究しており、学部生時代から様々な国に渡航する機会も多かった。しかしこうやって現地で普通の市民のように生活することは初めてで、この経験から海外に対する意識がますます高まった。本来、この留学プログラムは海外志向の強い学生のために、海外での就職やインターン、長期留学のキッカケとなる場を提供する目的で始まった。

日本では体験できないことを経験することには本当の意味があるように感じた。今後も様々な国で建築だけでなく、文化や生活を知ることで自分の設計や生き方に刺激を与えていきたい。そして、私のように海外に興味がある学生は、ぜひともこの留学プログラムに参加してほしいと感じた。

設計課題の敷地であったフェブラ・アイ・コーツ。1910 年代に建てられた繊維工場の再利用案を考案した。

設計課題ではバルセロナの伝統的な人間の塔の練習場を提案した。

EMBT（エンリック・ミラーレス）の展示室。古い内壁や床材を残し、ロフトや柱を付け加えている。

此木 駿 Shun Konoki

1992　静岡県生まれ
2011　静岡県立静岡東高等学校 卒業
　　常葉大学造形学部造型学科環境デザインコース 入学
2015　常葉大学造形学部造型学科環境デザインコース 卒業
　　工学院大学工学研究科建築学専攻（鈴木研究室）入学
2016　台南人文社会科学中心奨学生
2017　工学院大学工学研究科建築学専攻（鈴木研究室）卒業
　　内藤建築事務所　入所

サグラダ・ファミリア外観。想像以上の巨大なスケールと存在感に驚く。それぞれのファサードに施された彫刻はキリスト教の世界観を表している。

NICHE PASSPORT

スペイン・フランス・ドイツで感じた本物の体験

後藤 幹彦

知識と体験

建築に限らず、実際に訪れて自分の目で見ることでしか感じられないものがある。教科書から得られる知識は、本物から得られるもののごく一部であるかも知れないのに、その知識で「この建築はすばらしい」と言ってよいのだろうか。私はこの旅で、これまで学んだ建築を実際に見に行き、感じた事を自分の本物の体験として蓄積させ、建築デザインとは何かについて考える手がかりとしたいと考えた。

天才から受けた衝撃

授業やテレビ番組で何度も見てきたその建築を実際に目にしたとき、私はガウディが創ったのは超巨大な教会堂ではなく、繊細で神秘的なキリスト教の世界そのものだったと知った。そして感動と同時に、一種の虚無感を覚えた。実際に見たその建築に圧倒され、一生超えることが出来ない壁にぶち当たったように感じたのである。その後も市内のガウディ建築を回ったが、訪れるたびに感動と同時に、自分にはガウディのような仕事をすることもガウディの考えを理解することも永遠にできないのではないか、これから設計の仕事を目指していいのかという不安に苛まれた。

サグラダ・ファミリア内部にはステンドグラスからグラデーションの光が差し込み、ガウディの光に対するこだわりが強く感じられる。

近代建築家たちの「かっこよさ」

フランス、ドイツと訪れる中で、心境に変化が出てきた。リヨンの森の中にあるラ・トゥーレット修道院は、写真で見た無機質で巨大なコンクリート造の建築という印象だけでなく、採光窓に差し込む自然光の温かさや大開口から望める自然の美しさなど様々な表情を垣間見せた。同じ教会建築でもこれまで見てきた歴史的な建築様式とは全く異なり、近代建築が当時いかに斬新で奇抜だったかを理解するのは容易だった。ワイマールのバウハウス博物館では、バウハウスが時代の流れにとらわれず美術と建築の新しいあり方を探ろうとする人々の集まりであり、彼らの情熱がモダニズム建築に大きな影響を与えた事を知り、感銘を受けた。そして、デッサウでバウハウスの住宅建築を見学したとき、機能的に洗練されたデザインだけでなく、他を置き去りにして突き進む姿勢に「かっこよさ」を感じ、自然と「自分もこんな建築を設計したい」「自分ならここはこうしたい」と想像が膨らんでいた。

建築をデザインするということ

実際に建築を訪れたことで、建築デザインとは何かという問いに対し、納得できる一つの答えを実感として得ることが出来た。建築をデザインするということは、建築のなかに存在する新しい価値となり得るものを、建築家がそれぞれの方法で発見しようとすることである。ガウディもル・コルビュジエもバウハウスの建築家も、様式や方法は異なっても、その時代の固定観念にとらわれず新たな価値を見出そうとした点で共通している。ガウディのした仕事と同じことが出来なくても、自分なりにその価値を解釈し、新たな価値を見つけることが出来るかが肝要なのである。今回の渡航で得た本物の体験と実感を、今後自分にできるデザインは何か模索していく上で活かしていきたい。

ラ・トゥーレット修道院はリヨン郊外の小高い丘を登った先に、雄大な自然と街区を見下ろすように立っている。駅で出会った現地の男性に案内してもらいようやくたどり着けた。

ラ・トゥーレット修道院では見学だけでなく宿泊もした。モデュロールで設計された居室内ははじめ窮屈に感じたが、慣れると落ち着ける広さであると感じた。

デッサウにあるバウハウスの住宅群は、見学可能な家と実際に人が住んでいる家がある。建築が機能主義を叫んでいるように感じられる。

後藤 幹彦 Mikihiko Goto

1995　千葉県生まれ
2014　専修大学松戸高等学校 卒業
　　工学院大学建築学部建築デザイン学科 入学
将来の夢　外国人向けゲストハウスの設計、開業

NICHE PASSPORT

シアトルにてまちの資源を読み解く

深田 隼人

ガス・ワークス・パークの丘からまちの中心部を望む

対岸から望むガス・ワークス・パーク　右はガスプラント

はじめに

今回の海外渡航は、魅力的なまちとして著名な都市を訪れ、まちづくりの観点からその魅力を体験し、調査することを目的としていた。アメリカ西海岸の各都市のまちづくりにおいて関心を持ったのは、既存のまちの要素（資源）に潜む魅力を的確に見抜き、都市のアメニティへと昇華させている点である。そういった手法にはその地に住む人々が馴染み深い風景を受け継ぎ、都市への愛情や誇りを増していく効能があると考えられる。また、まちの住民のよりよく暮らしていくことへの貪欲さや柔軟さがまちづくりの大きな推進力となると考えられる。アメリカでは特に上記のようなことを意識しながら旅をした。

負の資源の転換

シアトルでは1960年代の都市改造計画を契機として、歴史保全活動や各地区のアイデンティティを高める取り組みが行われてきた。市内のレイクユニオン湖畔にある「ガス・ワークス・パーク」はかつて石炭のガスプラントがあった場所をランドスケープデザイナーが湖畔の公園として再整備したものである。ガスプラントは周囲の環境悪化を招いた負の遺産であるが、ここでは公園設計における景観を構成する手がかりとして、また工業都市としての負の歴史を伝える新たな役割を与えられていた。ガスプラント本体はまだ毒性を有し、張り巡らされた柵によって触れることすらできない。しかし、丁寧に整備された現代のモダンなまちからは想像しにくいまちの歴史を垣間見ることができる場所である。ここを訪れた日、偶然地元住民の結婚式がひらかれていた。かつてのまちの影の象徴は今では祝祭の場所として住民に愛されているのである。デザインの可能性を強く感じることができる場所であった。

住民の想いが基盤となるまちづくり

シアトルには徒歩５分程度の間隔で様々な公園が配置されている。自然を用いることで各公園内には多様な居場所が生まれていた。多くは、日常で安らぎを得るための公園の必要性を訴える住民の声が契機となって整備されたものだ。公園以外にもそのような事例がある。「ガス・ワークス・パークス」からほど近い橋の下に巨人の像が建てられている。その場所はもともとゴミだめになっていた場所であった。その状況を危惧していた住民たちが中心となり資金を集めコンテストを実施し、そこに像を建てたのである。住民が尽力して建てられた巨人の像は人々に愛されており、実際に行くと綺麗に管理されているようであった。ここでも負の場所は改善されるだけでなく人を惹きつける場所に変化していた。

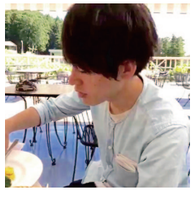
橋の下に鎮座する巨人の像

ガスプラントの傍らで進められる挙式の準備

シアトル市内の親水的な公園の風景

最後に

都市はそこで行われてきた多くの営みと歴史の積み重ねによる価値を持っている。今回訪れた場所の多くはそれぞれのまちのコンテクストや資源を的確に捉えたものであったように感じる。渡航で得た視点の広がりを元に今後は更に研究の精度を高めていきたい。



深田 隼人　Hayato Fukada

1993　山梨県生まれ
2012　甲府東高等学校 卒業
　　工学院大学建築学部建築学総合学科 入学
2016　工学院大学建築学部建築デザイン学科（澤岡研究室）卒業
　　工学院大学大学院工学研究科建築学専攻（澤岡研究室）
将来の夢　地元のまちの建築・まちづくり業務に携わること

ニューヨークのロウライン展示場

ボートランドのウォーターフロント

NICHE PASSPORT

人と建築と歴史が散りばめられた U.S.A

崎山 涼

サンティアゴ・カラトラバ設計のワールド・トーレド・センター・トランスポーテーション・ハブ

はじめに

「持続可能な都市と建築単体としての可能性」

都市の調査と現在進行する基本計画の研究を通して、その部分である建築のつくられ方を学びたいと思った。意匠だけでなく、環境、文化を融合させた建築と都市のあり方を理解しながら歩くことを目的とし、渡航先を大まかにニューヨーク・ポートランド・サンフランシスコに決定した。街並みの形成と共に人々の活動に焦点を当てながら、旅の備忘録としてまとめる。

都市の形成

様々なプロジェクトの中でニューヨークは地区ごとのコンテクストを活かしながら成長していると感じた。サンフランシスコでも同様に感じたが坂の街は交通機関がニューヨークとは異なっていた。そして、オレゴン州ポートランドはこの二つの街とは全く異なった都市を形成していた。ポートランドは歩いてみると軍事産業で栄えた都市の面影はなく、自転車や人が溢れかえる賑やかな都市だった。またサステナブルな再構築により、緑の保全だけではなく、随所で街路の整備や公共交通の再生をしたおかげもあり、とても歩きやすい構造だった。一歩、カフェやレストランに入るとそこには地元で採れたオーガニック食材や、個性あるアーティストや学生たちの会話や賑わいのあるユニークな街だった。

土着的な風景

カリフォルニア州サンフランシスコはどこかニューヨークに似ている部分もあったが、高低差がとても魅力的に感じた。グレース大聖堂がある丘の頂部の伝統的な街並みは、日本とは違った風景で坂上からの眺めは最高だった。また、ロシアン・ヒルは坂の街で有名で、ケーブルカーとセットで見た風景は今でも忘れられない。

街中にあるアクティビティ

急な坂の連続、地元の人々の生活の一部であるケーブルカー、歴史あるウォーターフロント。そして、サンフランシスコの代名詞であるゴールデンゲートブリッジ。サンフランシスコでは様々な名所を時間をかけて見ることができた。特に興味深かったのはゴールデンゲートパークだ。広大な公園であったが随所でお昼を食べたり、寝転がったりと時間がゆっくりと流れているようだった。サンフランシスコには様々な公園があったが、全てにおいて使い手と作り手が巧みだと感じた。

新旧の対比

今回での旅ではニューヨークでの滞在が最も印象深く、多くの美術館や施設を自分の目で直接見て、体験することができた。中でもハイラインは想像以上に感動した。ニューヨークの街中を這うように配置された配置線跡は歴史を残しつつも、自然とともに保存されることによってニューヨークの新たなスポットして確立していた。また、高層ビル群の中に突如に現れるこの緑や水は人々の憩いの場となっており、最先端の都市であると改めて感じた。

タイムズスクエア

ソフトとハードの混合

ロウアーマンハッタンにあるソーホーは今では高級ブランド店が立ち並ぶファッションの街だが、カースト・アイアン建築が生まれた場所としても有名で、また芸術の街ともなっている。歴史的建造物が多く存在し、同じマンハッタンにあるチェルシー地区と比べても最新ファッションと歴史的建造物が交わる街だった。新築だけではない、マンハッタンの都市形成は人々の知恵とアクティビティからなるもののように感じた。

半月間の旅を通して

正直、あと最低でも半月は期間として欲しかったが、アメリカを周遊できたことは大変満足している。修士論文の大きなテーマでもある、「風土」や「地域」、「気候」など、その場でしか感じることのできない風景や人々のアクティビティの全てを語ることは難しいが、一つとして同じ条件下の都市はなかった。また、建築や街から得たものだけではなく、英語を使い、多くの方とコミュニケーションを積極的に取ってできたつながりは自信と共にこれからも積み重ねていきたいものとなった。最後に、このような機会を頂いた大学の先生方に感謝したい。ありがとうございました。

ゴールデンゲートブリッジ

崎山 涼　Ryo Sakiyama

1992　茨城県日立市生まれ
2011　多賀高等学校 卒業
　　工学院大学建築学部総合学科 入学
2015　工学院大学建築学部建築総合学科（澤岡研究室）卒業
　　工学院大学大学院工学研究科建築学専攻（澤岡研究室）入学
将来の夢　世界のどこかでデザインのお仕事ができればと願っております。

PHILA TAIPEI 2016 台北世界切手展にて金メダル受賞

大場 光博

ナショナル郵便史部門で金賞

2016年10月25日に台北マリオットホテルで国際切手展「台北2016世界郵展」PHILA TAIPEI 2016のパルマレス（授賞式）が開催され、私は金賞を受賞した。今回は４年に一度のチャンピオンシップである。世界76カ国から608人が2,428フレームを出品した。台湾の中華郵政はこの世界展を記念して記念切手と切手シートを多数発行した。私はナショナルクラスの郵便史部門に作品を出品した。タイトルはThe Opening of China(中国の開国)1745-1897である。私は中国の近代史の中でも1745年から、国家郵政の大清郵政が成立する1897年迄の中国初期の外国郵便制度を研究した。約１世紀半の中国の歴史を印象的な事柄を通じ年代順に解説する。自分の足元を狭く深く掘り進めて20～30年が経過した。作品は全部で８フレーム（Ａ４版16頁×８F=128頁）である。

BULLETIN

授賞式にて左から２人目。（撮影：沈英明）

中国の開国1745-1897

1. 最初期の時代

中国初期の外国人居留地はポルトガル領マカオと広東の２港のみだった。

1860年、18世紀の中国地図(図１)。帆船時代、西洋から中国へは喜望峰とインド洋を経由する西廻り航路である。外国の商業活動が始まったばかりの香港と上海は記載されていない。

1812年、米国ロードアイランド宛の広東十三行のひとつ怡和行の当主、浩官(Howqua1769-1843)の手紙(図２)。外国貿易はこれら特許商人を通して通商が行われた。彼は広東のアメリカ商人から大変信頼されていた。

1840-42年、第一次阿片戦争の英国遠征軍の貴重な兵士用低料金軍事郵便(図３)。1842年7月19日、英国ノーサンプトンにいる父親宛の、開港地廈門から最初期の手紙。「英国軍の廈門攻撃や海賊捜査」の詳細な記述がある。

図１　1860年18世紀の中国地図(手彩色)

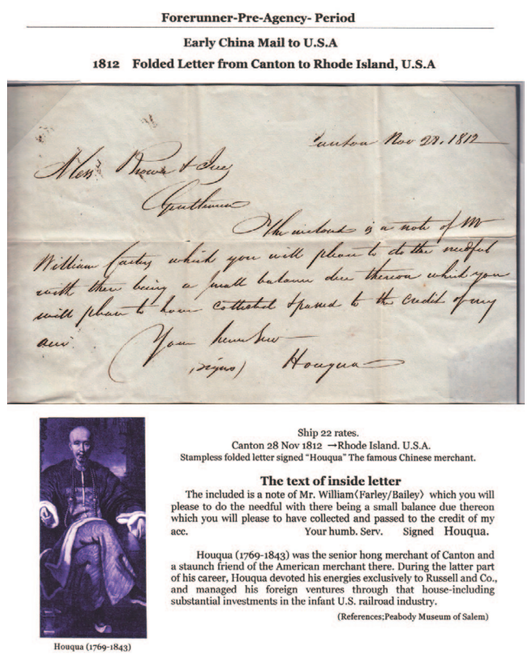


図２　1812年中国の特許商人・浩官の手紙

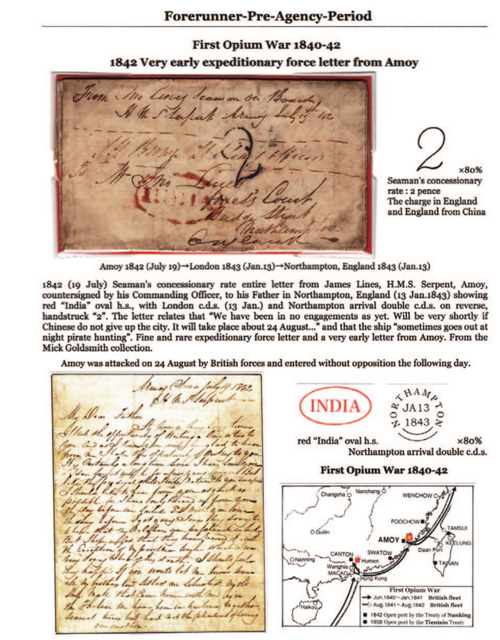


図３　1842年第一次阿片戦争の英国遠征軍郵便

2． 南京条約以降

1842年、南京条約で五港(広東・福州・廈門・寧波・上海)が開港した。外国人が各地に拡散し、必要に迫られて外国郵便局を設立し、商業活動を開始した。

1852年、下田に来航したペリー提督の旗艦サラトガは香港で待機していた(図４)。英國と米国はアジアの海を分割し監視していた。1853-56年、クリミア戦争が勃発して英仏の国際的な評価が高まり中国と日本へも波及したため、サラトガはニューヨークから大西洋、喜望峰、インド洋を経由して香港に来るまで133日もかかった。

1860年- 第二次阿片戦争が勃発して英仏両軍が勝利する(図５)。

1863-97年 英仏は上海工部局を設立して10港に居留地郵便を設立する。沿海部や揚子江の内陸部深く重慶にも進出した(図６)。

1865年 米国は太平洋横断の航路を香港～サンフランシスコ間に開設。料金や日数が短縮される(図７)。

1875年 太平天国の鎮圧にあたった常勝軍外人部隊のイギリス人将軍チャールズ・ジョージ・ゴードン(図８)。後年アフリカ・スーダンのマファディ軍反乱鎮圧で1885年に戦死した。

1878年 中国の郵政事業が外国人の管理する海関郵政(1878-97)に委ねられた。海関大龍票や小龍票が発行された。これらのカバー(図９)は貴重である。

1895年 ロシア局(図10)。ロシアは各種条約でシベリアからウラジオストクまでの広大な領地を手中に納めた。林則徐の阿片戦争での「ロシアは農民国なので必ず中国の領土を奪う」との忠告が的中した。

1842-1907年、列強の中国分割(図11)。英國は香港と揚子江沿い、ロシアは北方、仏国は西側、米国は上海を主な拠点としていた。そして鉄道建設は勢力圏拡大のための軍事的戦略だった。清朝崩壊のきっかけは1911年の幹線鉄道の国有化宣言である。同年10月に武昌で軍隊が蜂起して軍政府が樹立した。

1922年12月31日、アメリカをはじめ日本、イギリス、フランス等の在中国外国郵便局が中国から撤退する。

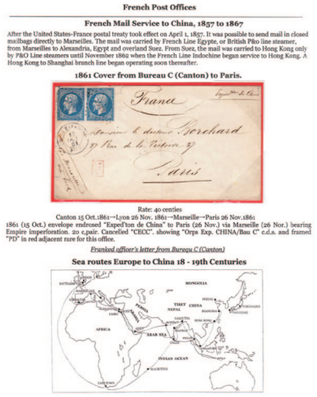


図５　1861年パリ宛フランス軍将官軍事郵便

図６　1895-97年廈門書信館郵便局

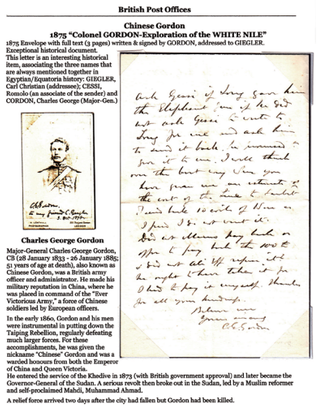


図８　1875年英国人Gordon将軍の手紙

図９　1890-92年海関小龍

図10　1895年ロシアUrga(ウランバートル)局

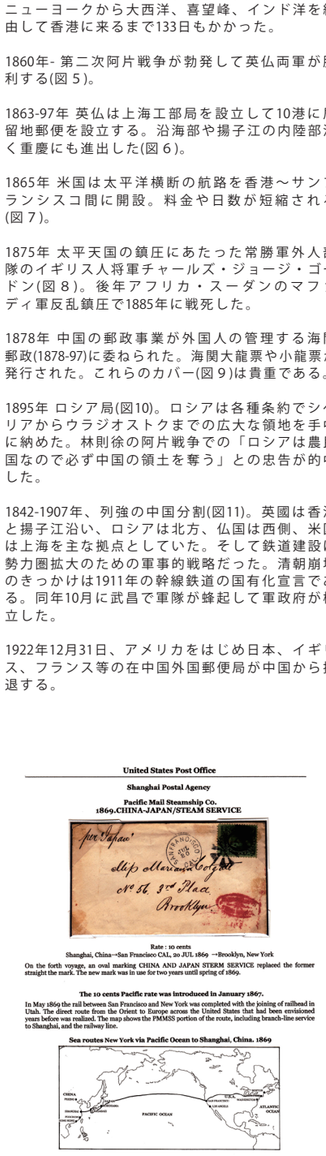


図７　1865年U.S.A.太平洋横断便

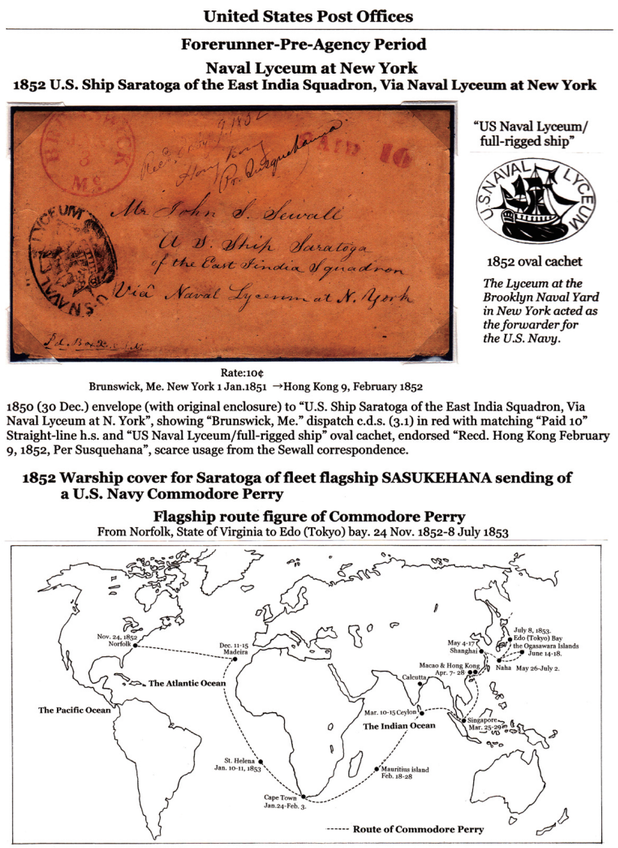
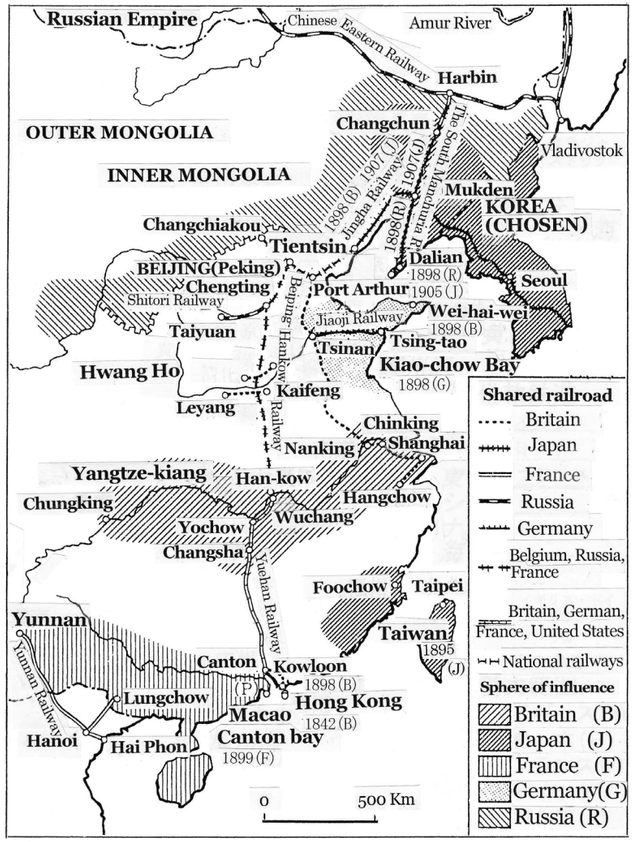


図４　1852年ペリー提督サラトガ号宛手紙



資料/岩波新書 336　中国近現代史 小島晋治 丸山松幸著　1986

図11　1842-1907列強の中国分割

大場 光博　Mitsuhiro Ohba

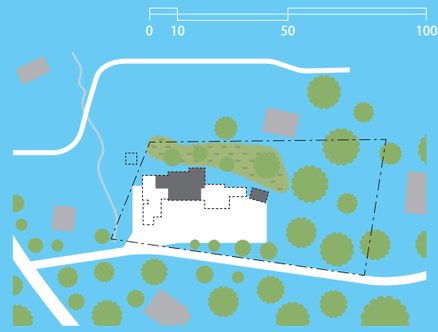
1969　日本大学工学部建築学科 卒業
1971　工学院大学大学院荻原研究室 修了
日本大学工学部助手、日本建築学会ハンディキャップト委員、新幹線駅舎や特定目的公営住宅委員、㈱目白都市建築研究所副所長。住宅・都市整備公団の首都圏エリアNew Town・MM21他の企画・計画・調査、㈱都市建築デザイン研究所専務取締役、工学院大学校友会企画広報部理事、同窓会NICHE前編集長。とつくに会、全日本郵趣連合、日本郵趣協会、The Royal Philatelic Society London、The Hong Kong Philatelic Society会員。

受賞歴
全国切手展JAPEX1997 Gold & Grand Prix、中国書信館「China Municipal Post of Treaty Ports 1865-97」全国切手展JAPEX2014 Large Gold & Grand Prix「U. S. Postal Agency in Shanghai & Early History 1802～1922」

NICHE GALLERY

白樺湖 夏の家

工学院大学旧白樺湖学寮 1968-2016

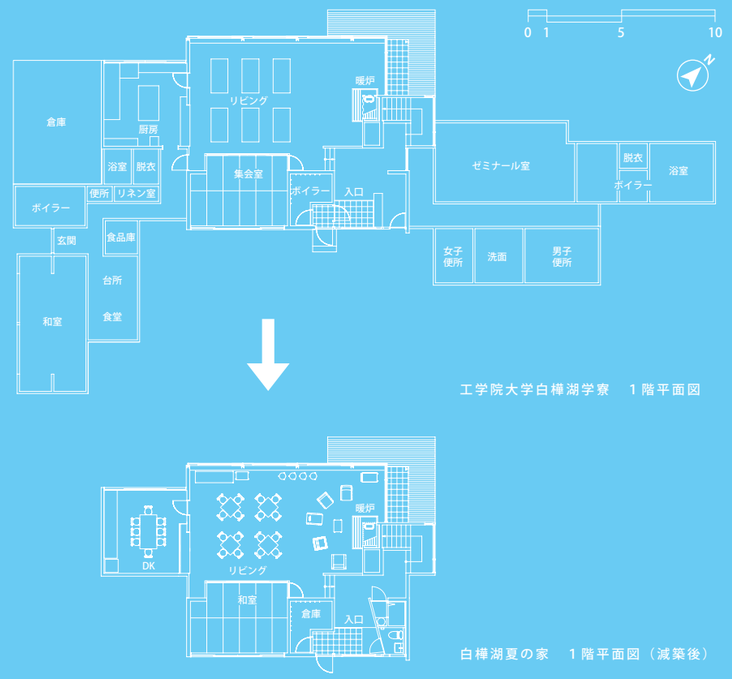


白樺湖夏の家　配置図

写真＝齋藤さだむ　　文＝鈴木敏彦

新宿から２時間余り特急に乗ると長野県茅野駅に着く。降りた途端に空気の美味しさに気がつく。ここから白樺湖行きのバスに乗って揺られること45分、「白樺湖夏の家」に到着する。学生の頃にスキーや釣りや研究室の合宿で宿泊したことのある工学院大学の卒業生も多いだろう。この白樺湖の拠点となった建物こそ、建築学科教授であった武藤章（1931-1985）が設計した学寮である。武藤先生は、1961年にフィンランドに留学し、巨匠アルヴァ・アールト（1898-1976）のアトリエで直接学んだ唯一の日本人建築家であった。帰国後に武藤先生が設計した「工学院大学八王子図書館」やこの白樺湖の学寮には北欧の建築の特色が色濃く現れている。トップライトからの光の取り入れ方や、木をふんだんに使った内装、皆を暖かく包み込む大きな暖炉は、今なお魅力的だ。しかし白樺湖全体の利用者低減にともない、大学はこの学寮を閉鎖した。とはいえ借地権はまだ20年残っている。契約を解除すれば建物を解体し、更地に戻すことになる。前述の図書館は新しいキャンパス計画にともない解体を余儀なくされた。今度こそ武藤先生の設計した珠玉の建築を残す方法はないものか。校友会と建築系同窓会は大学から土地の借地権と建物を引き継ぎ、一部減築の上、夏期限定の「夏の家」として保存・活用していくことを決意した。森に囲まれた白樺湖は、まるで日本におけるフィンランドである。「白樺湖夏の家」は、奇しくもフィンランド独立100周年にあたる2017年に始動する。

減築前の全景

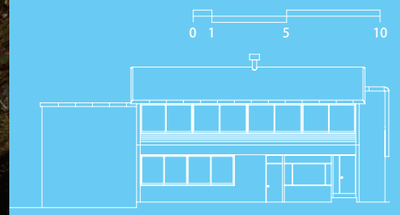


工学院大学白樺湖学寮　１階平面図

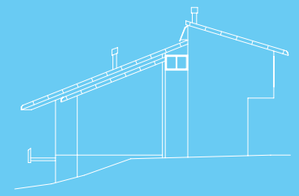
白樺湖夏の家　１階平面図（減築後）

この新しい建物は従来の建物の北側に位置させることにし、リビングルームは北の白樺湖に面した斜面に浮き、それに対して４つの個室が南の小山に面した２階に並んでいる。そして個室の北側の通路はリビングルームに吹き抜けている。これはあくまでもリビングルームを中心として全体の空間がひとつに統一されるようにと考えてしたことである。

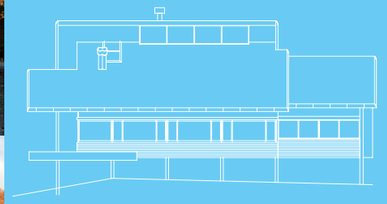
武藤章『工学院大学建築学科同窓会誌 Vol.2』（1969 年）より



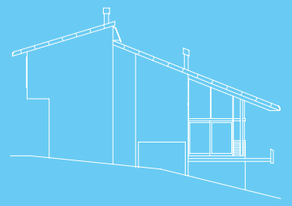
南立面図



西立面図



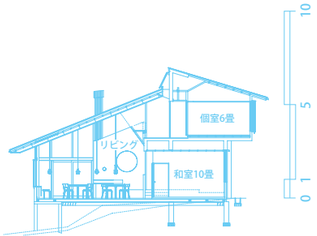
北立面図



東立面図

■建築データ
第１期工事設計：1968年工学院大学建築学科大学施設委員会／意匠　武藤章、南迫哲也／構造　十代田昭二助／設備　中島康孝）
第２期工事：1971年増築
第３期工事：1977年増築
第４期工事減築改修設計：2016年工学院大学建築学系同窓会／建築を保存する会
主要用途：別荘（学寮から用途変更）
減築改修工事施工：株式会社ヤマウラ（第１期工事施工　白石建設）
規模：敷地面積　約2,640㎡／建築面積　164.20㎡／延床面積　204.05㎡／１階　135.06㎡／２階　68.99㎡
工程：改修設計期間　2016年４月～６月／改修施工期間　2016年７月～10月（１期工事竣工　1968年11月）
構造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、木造
設備：給湯　小型電気温水器／暖房　暖炉
主な外部仕上げ：RC　打放し／鉄骨部　リブラス下地モルタル木ゴテ仕上VP／木造部　欧州松本実板下見板張り、煮亜麻仁油塗り／軒天井　白ラワンベニヤOS／屋根　亜鉛鉄板平葺OP　鼻隠　鉄板OP／テラス　鉄骨製、床一部スキ入りモルタル目地切
主な内部仕上げ：リビングルーム／床　ブナフローリングCL／壁　コンクリート打放リブラスモルタル木ゴテVP、一部白ラワンベニヤ／天井　白ラワンベニヤOS　梁下 漆喰

リビング
Living room



白樺湖夏の家　断面図

「白樺湖夏の家」ではリビングの２層吹き抜けの空間を介して、キッチン、１階の和室、２階の廊下、２階の和室、暖炉、トイレ、シャワー室が立体的に繋がっており、天井のトップライトから自然光が降り注ぐ。２階の手すりに備えつけられたソファーに座りながら１階を見下ろすと、傾斜したラワンベニアの天井が大きな硝子の開口部を貫通して庇となり、その先に白樺の木々が広がるのが見える。１階のリビングの主役は大きくて品格のある暖炉だ。アルヴァ・アールトが1958年にパリ郊外に設計したルイ・カレ邸の暖炉を彷彿とさせる。暖炉に火を灯すと暖かさと共に空間全体が生き生きとするのを肌で感じることができる。リビングの家具と照明には、アルヴァと妻のアイノがデザインしたアルテックの製品を選定した。暖炉の廻りにはイージーチェアを配し、４人掛けの各テーブルにはペンダントライトを机上面から60cmの位置に設置した。飴色にエイジングしたブナのフローリングに合わせて、1950年代から70年代のヴィンテージモデルの椅子とテーブルを選定した。

リビングからダイニングキッチンを望む。２階の手すりの裏が造り付けのソファーになっている。

ダイニング キッチン

Dining Kitchen

ダイニングキッチン

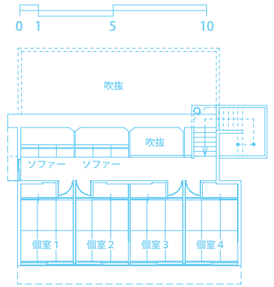
かつて寮母が食事を提供してきた厨房は、プロ用シンクだけを残し、宿泊者が自ら料理と食事を楽しむダイニングキッチンに改造した。キッチンのリビングの両側から開閉できる食器棚は武藤先生の設計だ。食器類はアイノ・アールトとカイ・フランクのデザインを揃えた。テーブルの机上60cmにはアールトがヘルシンキのレストラン・サヴォイのためにデザインした照明「ゴールデンベル」を下げた。

食器はカイ・フランクのティーマ。グラスはアイノ・アールトのタンブラー。カトラリーはカイ・フランクのオリジナルのスカンディア。

リビング側からも使える食器棚は、武藤先生のオリジナルデザイン

和室

Guest room



白樺湖夏の家　２階平面図

１階の和室11.5畳は集会室としても使用できる

２階の和室６畳

１階には定員８人の11.5畳の和室、２階には定員４人の６畳の和室が４室あり、合計24名が宿泊可能である。１階の和室は間口一杯に開口部がとってある。畳とリビングのフローリングには段差がない。２階の和室の建具には襖、木製ガラス戸、障子がある。宿泊者はこれらの和室に各自で寝袋を持ち込んで就寝する。

トイレ シャワー

bathroom

最新のトイレを設置した。また入浴には付近の公共温泉施設の利用を想定し、一人用のシャワーユニットを設置した。

シャワー室　TOTOシャワーユニット、Xタイプ

洋便器　TOTO ピュアレスト、ウォシュレットタイプSB

家具、照明
テーブルウエア

Interior fixtures

旧学寮で使用した既成家具を一新し、インテリアの家具調度品には徹底してフィンランドのデザインを選定した。「白樺湖夏の家」はフィンランドの暮らしとデザインを体験し学ぶ場となる。家具と照明は、アルテックが1950~70年代に製作したアールト夫妻デザインのヴィンテージ家具で統一した。椅子やテーブルの脚のL型に曲がった曲げ技法こそアールトの家具の特徴である。この部分を詳細に見ると製作年代ごとのデザインの変遷を比較できる。選定にあたっては北欧家具を専門に扱う「talo」の山口太郎氏の協力を得て、希少なアイテムを揃えた。イッタラのグラスは1932年にアイノ・アールトがデザインしたもので、グラスの同心円の模様が機能と美しさを兼ね備えている。白磁の食器「ティーマ」とカトラリーの「スカンディア」は同じくイッタラから同年代に活躍したカイ・フランクのデザインを揃えた。シンプルでモダンなデザインは、どんな料理も美しく見せてくれる。こうして、「白樺湖夏の家」は北欧デザインを体験する宿泊施設でありながら、アールトの家具を動態保存するミュージアムとなる。もちろんカーテンのシエナもアルヴァのデザインだ。フィンランドは日本から飛行機で10時間半の距離にある。森と湖の豊かな国に、白樺湖から思いを馳せてみるのはどうだろう。アールトに薫陶を受けた武藤先生の建築以上に、フィンランドのデザインを味わうのにふさわしい器はないのではないか。

テーブル83　2000年モデル
W/D/H/：1822/911/714

チェアー611　60′s
W/D/H/SH：450/490/790/450

テーブル　76cm角正方形　50′s
W/D/H/：838/760/709

チェアー69　70′s
W/D/H/SH：435/460/730/435

テーブル　76cm角正方形　50′s
W/D/H/：760/760/710

チェアー69　60′s
W/D/H/SH：440/474/758/433

チェアー69　50′s
W/D/H/SH：430/460/725/390

チェアー69　60′s
W/D/H/SH：440/474/758/433

チェアー69　60′s
W/D/H/SH：440/474/758/433

アームチェアー401　70′s
W/D/H/SH：620/620/1020/210

アームチェアー401　70′s
W/D/H/SH：620/620/1020/210

ブックシェルフ　60′s
W/D/H：900/251/248

Teema white plate flat 26cm
φ/H：260/33

スツール60　60′s
W/D/H/SH：347/374/439/439

A440 PENDANT LIGHT
φ/H：190/230

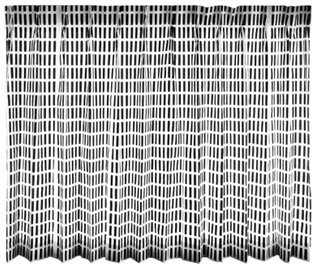
Teema white bowl 15cm
φ/H：150/55

ベンチＳＰ　60′s
W/D/H/SH：1800/600/442/442

A110 PENDANT LIGHT
φ/H：160/440

Teema white cup&soucer
カップ φ/W/H：82/106/61
ソーサー φ/H：143/24

サイドテーブル　70′s
W/D/H：573/420/511



SIENA

Teema white tea pot 1L
W/D/H：210/130/155

コートラック　50′s
W/D/H：1200/300/275

Scandia
フォーク W/H：25/200
スプーン W/H：45/195
ナイフ W/H：20/210

Aino Aalto tumbler
φ/H：75/90

暖炉の前にある白と黒の毛足の長いラグと牛の毛皮の敷物は、武藤邸（白鷺の家、1974年）で使われていたもので、ご家族からの寄贈品。

交通アクセス

鉄道利用
（鉄道運賃3,260円+特急指定席2,610円+バス料金1,000円）
新宿駅（JR中央線特急約２時間20分）→茅野駅（白樺湖行きバス約45分）→バス停「グランド前」（徒歩６分）→白樺湖夏の家

車利用
東京（新宿）→中央自動車道（180km）→諏訪IC→茅ヶ沢（12km）→国道152号→白樺湖（10km）→バス停「グランド前」から坂道を上った左手→白樺湖夏の家
東京（練馬）→関越・上信越自動車道（170km）→佐久IC→白樺湖（40km）→バス停「グランド前」から坂道を上った左手→白樺湖夏の家

白樺湖夏の家　周辺地図

白樺湖夏の家
工学院大学旧白樺湖学寮

■基本情報
施設名：白樺湖夏の家／工学院大学旧白樺湖学寮
所在地：長野県茅野市北山29
主要用途：フィンランドの巨匠アルヴァ・アールトに学んだ唯一の日本人建築家で工学院大学教授であった故武藤章先生（1931-1985）が設計した建築の動体保存を目的に、主に北欧の建築とデザインに関する講演会やワークショップ等に活用する。「白樺湖夏の家」を拠点に、北欧の暮らしに学ぶ環境づくりを啓発し、白樺湖の活性化に貢献したい。

「建築を保存する会」
本建築を保存する活動を支援し、維持管理に協力する校友の会。入会時寄付金　300,000円、維持協力金　12,000円／年。現在の会員数は20名。入会金は改修工事費等の原資となった。会員には「白樺湖夏の家」の鍵が与えられ、まるで自分の別荘のように利用することができる。会員は広く校友と教職員から募集する。会員の同伴を条件に、だれでもいつでも夏の家を利用することができる。教員が入会し研究室のゼミ活動等で有効活用することを期待している。利用スケジュールは「建築を保存する会」が管理する。
会員募集中！

「建築の保存を支援する企業の会」
本建築を保存する活動を支援し、維持管理に協力する企業の会。入会時寄付金　500,000円、維持協力費　120,000円／年。建築の保存をサポートする企業として建築系同窓会が表彰する。企業会員は本建築を企業研修、企業主催のイベントに利用できる。本学学生を対象とするイベントについては、建築系同窓会が全面的に支援する。
企業会員募集中！

施設内容：１階　リビング、暖炉、ダイニングキッチン、和室11.5畳、トイレ、シャワー室。２階　和室６畳（４室）
設備：IHヒーター、冷蔵庫、電子レンジ、バーベキューコンロ、調理器具一式、小型電気温水器、シャワーユニット、ウォシュレット付トイレ
宿泊定員：24名
家具調度：アルヴァ・アールト、アイノ・アールトがデザインしたヴィンテージ家具、照明器具、アイノ・アールトデザインのグラス、カイ・フランクのテーブルウエア他
公開日：2017年より５月～10月の６ヶ月間
周辺施設：白樺湖温泉すずらんの湯（割引有り）

■学寮から夏の家へ
2016年３月　工学院大学白樺湖学寮が閉鎖され、解体の危機を迎えた。この珠玉の建築を保存するため、校友会と建築系同窓会が土地の借地権と建物を引き継ぐことを決意。「建築を保存する会」の発起人会を立ち上げ、寄付を募った。
2016年７月　改修工事開始。1977年の第３期工事まで増築した建物を1968年の第１期工事の状態まで減築。夏期利用に限定し、石油暖房設備を撤去。浴室と便所も撤去し、シャワー室とウォシュレット付トイレを新設。厨房をダイニングキッチンに改造。消防上使用できなかった暖炉を復活。アルヴァ・アールトのヴィンテージ家具と照明でインテリアを一新。外部補修および内部家具と設備新設にかかる費用は発起人会20名（校友会、建築同窓会有志）の寄付を原資とした。
2016年９月　工事完了。完了検査の後、「建築を保存する会」の第１回発起人会を9月24日に開催。
2017年５月　本格的に「白樺湖夏の家」として始動する。武藤章の建築の動体保存を目的に、北欧建築・デザインに関する講演会やワークショップ等のイベントを中心に活用していく。2017年はフィンランド独立100周年にあたる。10月、武藤章先生の三十三回忌を「白樺湖夏の家」にて行う。

■『建築を保存する本02　工学院大学白樺湖学寮 1968-2016／武藤章』出版へ
2015年10月、武藤先生が設計した代表作品の一つである「工学院大学八王子図書館」が解体された。建築学部同窓会では保存を強く訴えたが様々な理由によって力が及ばなかった。解体を阻止できない現実を直視し、改めて建築の記録と保存の方法を模索する中で、書籍『建築を保存する本01工学院大学八王子図書館／武藤章 1979年12月竣工~2015年10月解体』の発行に至った。今回、同じく武藤先生が設計した白樺湖学寮においては、建物を減築して維持管理費を抑え、同窓会が建物を引き継ぐことで解体を回避することができた。建物を使いながら保存するという試みを『建築を保存する本02』にまとめ、広く社会にアピールしていきたい。2017年12月発行予定。

■2017年スケジュール
５月　別荘開きの集い（水出し）
６月　北欧の夏至祭（1年で最も昼間の時間が長い日を祝福するイベント）
７月　北欧建築・デザインの集い１（フィンランド独立100周年記念講演会１）
９月　北欧建築・デザインの集い２（フィンランド独立100周年記念講演会２）
10月　故武藤章先生三十三回忌
　　水抜きの集い

＊詳細は、建築学部同窓会HP参照
http://niche-alumni.com/

写真　齋藤さだむ（齋藤さだむ写真事務所）
文　鈴木敏彦（工学院大学建築学部教授、建築学系同窓会会長、北欧・建築デザイン協会理事）
家具実測　工学院大学建築学部鈴木敏彦研究室

個室で隔てられた生活でなく、共存の生活の方が大学山の家の生活にふさわしいと判断される。それならば、要求通りに個室を増殖するよりも、住宅でいえばリビングルームにあたるリビングスペースをこの際つくるのが先決であるという結論に達した。

武藤章『工学院大学建築学科同窓会誌 Vol.2』（1969 年）より

アルヴァ・アールトと武藤章

武藤章（むとうあきら）
1931 年東京都生まれ。1954 年東京大学卒業。1956 年工学院大学助手。1960 － 61 年アトリエ・アルヴァ・アールトへ留学。1961 － 62 年イタリアのジノ・ヴァッレ設計事務所勤務。1964 年工学院大学助教授。1967 年事務所設立。1974 年工学院大学教授となる。1985 年 10 月 12 日逝去。

既刊図書紹介

工学院大学建築学部NICHE出版会

工手学校-日本の近代建築を支えた建築家の系譜-工学院大学

彰国社
239ページ
1,500円＋税
2012年8月30日

全国主要書店、
アマゾンにて発売中

1887年、帝国大学総長の渡辺洪基や建築家の辰野金吾、土木を専門とする古市公威は、工業技術立国を目指して工手学校を創立した。工学院大学の前身である。卒業生は工手ことエンジニアとなって日本の近代建築を支えた。日本銀行、通天閣、明治の絵画館から台湾鉄道まで各地で活躍した13人の足跡を描いた。

NICHE mook 02

台湾建築探訪！

ATELIER OPA
248ページ
1,800円＋税
2015年3月31日

Bookshop TOTO、
台湾紀伊国屋書店、
アマゾンにて発売中

今、台湾が熱い。「台湾のフジモリ建築」では名誉教授の藤森照信が各地に作った茶室を網羅し「知られざる梅澤捨次郎の仕事」では日本統治時代の台湾における美しい百貨店や大学を撮り下ろした。かたや「アントニン＆ノエミ・レーモンドのトータルデザイン」では「軽井沢新スタジオ」を完全収録した。

NICHE mook 01

世界に羽ばたけ！

ATELIER OPA
214ページ
1,200円＋税
2014年3月31日

アマゾンにて発売中

大学の広報誌の枠を超え、「大学の知的資源やネットワークを活かして社会に貢献する」という理念で創刊した書籍第１号。建築とデザインを学ぶ者なら語学の壁を越え世界に視野を広げたい。実施初年度の「イギリスハイブリッド留学」やイタリアの国際学生建築コンペを通じ、世界にはばたく術を報告した。

建築を保存する本01

工学院大学八王子図書館/武藤章 1979年12月竣工~2015年10月解体

NICHE編著

丸善出版
256ページ
2,700円＋税
2015年12月15日

全国主要書店、
アマゾンにて発売中

惜しまれながら取り壊しを余儀なくされる建物は多い。八王子図書館の記憶を後世に受け継ぐため、撮り下ろし写真と実施設計の意匠図一式108枚を完全収録した。美しい照明や椅子のデザインは、本学教授で建築家の武藤章がフィンランドのアールトに学んだ賜物である。建築のアーカイブ方法を世に問う一冊。

谷口宗彦最終講義

工学院大学に在籍した49年間の全てを語る

谷口宗彦、他

谷口先生記念出版会
ATELIER OPA
244ページ
1,800円+税
2014年７月27日

アマゾンにて発売中

2014年、多くの学生に建築とデザインを指南した谷口先生は工学院大学を退職した。あまたのコンペに挑んだ若き時代から、空中権の取引により大学の新宿超高層キャンパスを1996年に実現するまでの一意専心の日々、そして施主とまちなみを思いやる一人の建築家としての姿を振り返る。熱き魂がここにある。

NICHE 03

フランス建築探訪！

丸善出版
282ページ
2,400円＋税
2016年7月14日

全国主要書店、
アマゾンにて発売中

フランスを徹底取材した。本学で西洋建築史の教鞭を取る「中島智章とめぐるヴェルサイユ宮殿」では17世紀を読み解き、創設者の一人である「第一回文部省フランス留学生、古市公威」の人物像からは19世紀末の土木と河川事情に迫った。そして「ジャン・プルーヴェ再考」では20世紀の建築家を再考した。

MUTOH
Creation, we make it happen...

MUTOHなら安心です。
あらゆる設計現場で、高い信頼性と
納入実績を誇るMUTOHの設計製図ツールは、
教育の現場でも活躍してくれます。

アイディアを
かたちに!

３Dプリンタ出力サービス
模型や試作、治具など様々な用途にご利用いただけます。
●３Dプリンタを購入するまでではない
●使用頻度が高くない
●３Dプリンタの品質を比較したい

LINER BOARD
UM-06N7
国産
建築士
受験用

最大適応製図用紙サイズ：A2
製図板サイズ：A2（451×604mm）
ゆとりの製図範囲と高精度・高操作性の
コンパクトな軽量型平行定規。

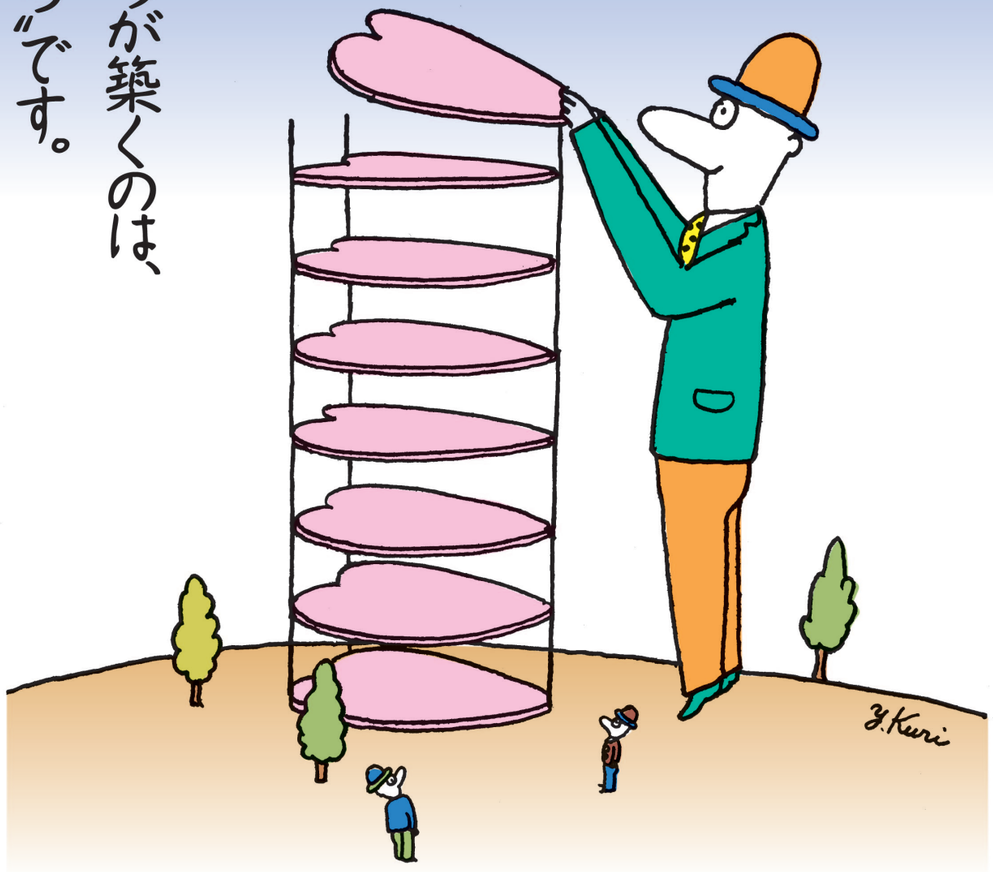
精度は、設計製図機械「ドラフター」譲りで万全です。
随所に、図面を汚さない「スケールフローティング機構」や
厚紙にも対応可能な「ダブルヒンジ機構」など、基本性能にも
妥協を許さない親切設計。

MUTOHならではのノウハウを凝縮したA2サイズ平行定規です。

インクジェットプリンタ
大判印刷から、立体物へのUV印刷など多種多様。
●大きいポスター、壁紙を印刷したい
●模型など立体物に印刷したい
●バッグなどオリジナルグッズを製作したい

武藤工業株式会社
東京都世田谷区池尻 3-1-3　〒154-8560　TEL(03)6758-7130　FAX(03)6758-7139
http://www.mutoh.co.jp/

私たちが築くのは、
〝こころ〟です。



今、人は地球について考えています。
そして、自然のことを想っています。
地球があって、緑にあふれ、人々が生活する。
私たちはそんな基本的なことから考えたい。
私たちのふるさと・地球にやさしい技術の確立。
熊谷組の変わらぬテーマです。

人と地球の未来を考える

KUMAGAI 熊谷組

フジタと描く、未来のカタチ。

私たちフジタは、お客様や社会が想い描いている未来を想像し、
その実現に向かって、共にカタチにしていきます。
土木・建築の枠を超えて、まちづくりをサポートし、
そこに暮らす人々にとって本当に価値あるものを創り続けることが
私たちの使命だと考えます。
大和ハウスグループの一員として、
広い視野を持ち、グローバルに展開してきたフジタ。
たゆまず進む私たちに、どうぞご期待ください。

FUJITA
Daiwa House Group®

わたしたちは、
建築物の安全を通して
社会に貢献しています。

代表取締役社長　田野邉　幸　裕　（昭和44年卒）

取　締　役　平　野　久　雄　（昭和41年卒）

取　締　役　鈴　木　宏　夫　（昭和44年卒）

監　査　役　谷　口　宗　彦　（昭和44年卒）

大規模建築物の **省エネ規準適合義務化** が平成29年4月より始まります。

当社は **地球温暖化防止** を目的とする制度維持に貢献したいと考え、

省エネ判定業務 を4月より始めます。

【お問い合わせ先】TEL(03)6413-5771
省エネ判定部　井上　保夫(昭和51年卒)　田中　栄作(昭和54年卒)

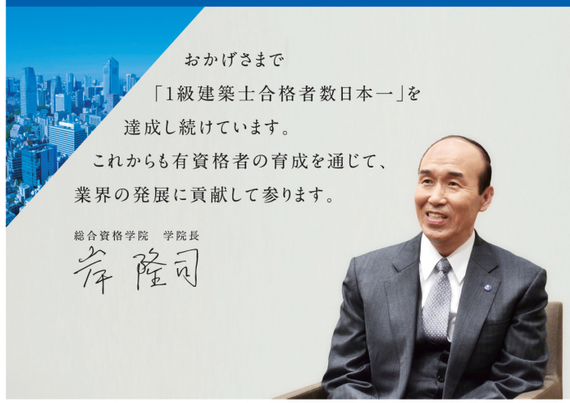
指定構造計算適合性判定機関/耐震診断評価委員会

株式会社 **建築構造センター**

〒160-0022　東京都新宿区新宿1-8-1　大橋御苑駅ビル　TEL(03)6413-5777

日本で最も多くの１級建築士を輩出し続けている学校です。

※平成24~28年度(過去5年累計)1級建築士設計製図試験 合格者合計19,562名中、総合資格学院受講生10,636名。 全国合格者占有率54.4%。
平成28年度1級建築士設計製図試験全国合格者3,673名中、総合資格学院現役受講生1,957名。 全国合格者占有率53.3%。
※(公財)建築技術教育普及センター発表資料に基づきます。



おかげさまで
「1級建築士合格者数日本一」を
達成し続けています。
これからも有資格者の育成を通じて、
業界の発展に貢献して参ります。

総合資格学院　学院長
岸 隆司

1級建築士 設計製図試験　1級建築士を1年で取得するなら総合資格学院

平成24~28年度(過去5年累計)
全国 ストレート合格者占有率 **58.9%**
(平成24~28年度 学科+製図合格)(平成28年12月15日 現在)
全国ストレート合格者合計8,520名中、総合資格学院受講生5,015名

平成28年度(単年度集計)
全国 ストレート合格者占有率 **55.1%**
(平成28年度 学科+製図合格)(平成28年12月15日 現在)
全国ストレート合格者合計1,582名中 総合資格学院現役受講生871名

1級建築士 卒業学校別実績

平成24~28年度(過去5年累計)の各年度における卒業生合格者20名以上の学校出身合格者の**6割以上**は総合資格学院受講生です。

平成24~28年度の各年度における卒業生合格者20名以上の学校出身合格者合計10,777名中、総合資格学院受講生合計6,605名
合格者占有率 **61.3%**

平成28年度　1級建築士設計製図試験 卒業生合格者20名以上の学校出身合格者 1,891名中 総合資格学院受講生 1,110名
合格者占有率 **58.7%**

工学院大学　平成28年度 1級建築士 設計製図試験 合格者 当学院受講率 **54.1%**
卒業合格者61名中**33名**が当学院の講座を受講して合格しました!!

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。 ※全国合格者数および全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センターの発表に基づきます。

【 法定講習 】
監理技術者講習 / 一級・二級建築士定期講習 / 管理建築士講習
宅建登録講習 / 宅建登録実務講習 / 第一種電気工事士定期講習
法定講習サイト 検索

【 法人サポート 】
各種合格ガイダンス / 模擬試験・社内講習会 / 新卒採用支援 / Web学習サービス
有資格者育成プラン / 願書取り寄せサービス

1級・2級 建築士 | 構造設計1級建築士 設備設計1級建築士 | 建築設備士 | 1級 管工事施工管理技士 | 1級・2級 建築施工管理技士 | 1級・2級 土木施工管理技士 | 宅地建物取引士 | インテリアコーディネーター

お申し込み・お問い合わせは各校まで　総合資格学院　【スクールサイト】www.shikaku.co.jp 総合資格 検索　【コーポレートサイト】www.sogoshikaku.co.jp

札幌校	TEL.011-219-3511	谷校	TEL.048-599-3531	沢校	TEL.0466-55-2611	崎校	TEL.0564-57-8161	山校	TEL.086-235-5901	山校	TEL.089-947-2611
盛岡校	TEL.019-604-7651	橋校	TEL.047-425-8941	湘校	TEL.025-242-2811	橋校	TEL.0532-57-0311	敷校	TEL.086-430-4711	知校	TEL.088-804-0711
仙台校	TEL.022-217-8421	葉校	TEL.043-302-1711	岡校	TEL.0258-32-0211	校	TEL.059-213-3211	山校	TEL.084-991-3811	神校	TEL.092-716-2081
山形校	TEL.023-615-2911	田校	TEL.0476-20-1411	校	TEL.026-268-0811	市校	TEL.059-359-0711	島校	TEL.082-542-3811	倉校	TEL.093-522-7511
郡山校	TEL.024-921-0041	柏校	TEL.04-7168-9111	本校	TEL.0263-40-2611	津校	TEL.077-566-6911	取校	TEL.0857-36-9511	留米校	TEL.0942-36-7141
いわき校	TEL.0246-35-5511	千住校	TEL.03-5284-3911	府校	TEL.055-230-1411	都校	TEL.075-253-0481	子江校	TEL.0859-37-3611	賀校	TEL.0952-27-9861
水戸校	TEL.029-300-4721	宮校	TEL.03-3340-5671	山校	TEL.076-439-1011	知山校	TEL.0773-25-0511	江校	TEL.0852-59-5411	崎校	TEL.095-816-3611
つくば校	TEL.029-860-3771	野校	TEL.03-3832-7201	沢校	TEL.076-237-6811	田校	TEL.06-4709-8111	南校	TEL.0834-27-6311	分校	TEL.097-540-6281
宇都宮校	TEL.028-614-4881	袋校	TEL.03-3982-8211	井校	TEL.0776-20-2111	橋校	TEL.06-6882-8211	口校	TEL.083-974-4011	本校	TEL.096-212-6811
小山校	TEL.0285-30-4011	田校	TEL.03-6408-9711	阜校	TEL.058-277-3701	なんば校	TEL.06-6648-5511	高松校	TEL.087-811-2011	児島校	TEL.099-239-5711
前橋校	TEL.027-290-2311	祥寺校	TEL.0422-23-6011	津校	TEL.055-930-2621	天王寺校	TEL.06-6771-4311	徳島校	TEL.088-657-7361	縄校	TEL.098-866-8311
高崎校	TEL.027-320-8511	川校	TEL.042-524-7841	岡校	TEL.054-275-3311	堺校	TEL.072-222-9311				
太田校	TEL.0276-47-1051	田校	TEL.042-724-3061	松校	TEL.053-456-2211	戸校	TEL.078-241-1711				
さいたま校	TEL.048-642-9811	浜校	TEL.045-316-6811	津校	TEL.052-202-1751	路校	TEL.079-224-1411				
越谷校	TEL.048-990-6971	崎校	TEL.044-850-3411	屋校	TEL.052-589-8911	良校	TEL.0742-30-1511				
川越	TEL.049-291-5211	木校	TEL.046-297-0511	駅校	TEL.0568-42-1211	歌山校	TEL.073-471-2711				

株式会社 総合資格
(一社)日本経済団体連合会会員
(一社)日本建築学会会員
(一社)全国建築人能力開発団体連合会会員
監理技術者講習実施機関 登録番号7
宅建登録講習機関 登録番号 第009号
宅建登録実務講習実施機関 登録番号 第05号

株式会社 総合資格学院法定講習センター
国土交通大臣登録講習機関
●一級建築士定期講習 登録番号 第5号
●二級建築士定期講習 登録番号 第4号
●管理建築士講習 登録番号 第2号
建消度審火防設定期講習機関
●第一種電気工事士定期講習 第4号

※当学院各校一覧は、平成29年1月現在のものです。最新情報は当学院HPをご覧ください。 H29.1

次号予告

イタリア建築探訪！

「辰野金吾のグランド・ツアー1882」
「ジョエ・コロンボ再考」

2018年3月31日発行予定

NICHE 編集部
鈴木敏彦（編集長）、大塚篤、大場光博、香川浩、楠昭、澤崎宏、柴田卓次、新海俊一、高木雅行、谷口宗彦、土屋和男、中島智章、西川豊宏、濱田昭夫、平井充、船越康弘、類洲環

工学院大学建築学部同窓会誌
NICHE2017 vol.40
発行日　2017 年 3 月 31 日
発行　工学院大学建築学部同窓会 会長 鈴木敏彦
所在地　〒163-8677
東京都新宿区西新宿 1 -24- 2
電話　03-3342-1211（代）

編集・制作：株式会社 ATELIER OPA
印刷製本：シナノ書籍印刷株式会社

建築学部同窓会年会費

郵便振込	￥4,000-
VISAカード引き落とし	￥3,000-

NICHE広告出稿のご案内

1．掲載
工学院大学建築学部同窓会誌
NICHE2018 vol.41

2．発行日、発行部数
2018年 3 月31日　20,000部

3．広告掲載料

A . 表紙裏	1 P	￥170,000-
B . 表紙裏の対向	1 P	￥150,000-
C . 裏表紙の内側	1 P	￥150,000-
D . 中面	1 P	￥100,000-

※消費税を別途申し受けます。

4．申込締切
2017年10月31日

5．サイズ
天地270mm×左右210mm

6．広告データ入稿締切
2017年12月15日

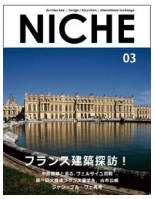
7．お申込・お問い合せ先
工学院大学建築学部
鈴木研究室　鈴木敏彦
〒163-8677　東京都新宿区西新宿 1 -24- 2
e-mail：ad@niche-alumni.com
電話：03-3342-1211（代）
※申込書が必要な方はご連絡ください。

BACK NUMBER

01と02はアマゾン、03は全国書店でもお買い求め頂けます。

NICHE mook 01
特集 世界に羽ばたけ！
イギリスハイブリット留学2013
ミラノ工科大学国際交流2011 - 2013
2014年 3 月31日第 1 刷発行
214ページ永久保存版
特集130ページ、日英バイリンガル
ISBN 978-4-907469-00-9
定価：本体1,200円＋税　にて発売中

NICHE mook 02
特集 台湾建築探訪！
台湾のフジモリ建築
知られざる梅澤捨次郎の仕事
2015年 3 月31日第 1 刷発行
248ページ永久保存版
特集160ページ、日台バイリンガル
ISBN 978-4-907469-02-3
定価：本体1,800円＋税　にて発売中



NICHE 03
フランス建築探訪！
中島智章と巡る、ヴェルサイユ宮殿
第一回文部省フランス留学生、古市公威
ジャン・ブルーヴェ再考
2016年 7 月14日第 1 刷発行
282ページ永久保存版
特集156ページ、日仏バイリンガル
ISBN 978-4-908390-01-2
定価：本体2,400円＋税　にて発売中

表カバー写真：中島智章

名称：左側　ボデー：ハッセルブラード SWC（Hasselblad SWC）レンズ：カール・ツァイス・ビオゴン（Carl Zeiss Biogon）38mm f4,5（ボデー固定）発売開始年：1959 年
右側　ボデー：ツァイス・イコン社製コンタックス II 型（Zeiss Ikon, Contax II）レンズ：カール・ツァイス・イエナ・ゾナー（Carl Zeiss Jena Sonnar）5cm f1,5 発売開始年：1936 年

解説：表紙写真はフーフアイゼンジードルンク・ブリッツ（Hufeisensiedlung Britz）、すなわち、「ベルリン市ブリッツの馬蹄形住宅」（1925-30）の中庭とファサード。中庭中央に池があり、住民の憩いの場となっている。使用機材は左側のハッセルブラード SWC。ハッセルブラード社は中判フイルム（120 フイルム）を使用する 6cm×6cm のスクエア・フォーマットの、レンズ交換可能な一眼レフレックス・カメラで有名なスウェーデンのメーカーである。フイルムをセットするフイルム・バックは取り外し可能で、フイルム・バックを複数用意すれば、1 台で複数の種類のフイルムを使い分けることができる。今回のメイン機材は通常の一眼レフではなく、超広角レンズ固定の SWC である。ピントは目測、構図はアクセサリー・シューに外付けのファインダーを見て定める。広角レンズによる建築撮影ではフイルム面を鉛直面に揃えることが肝要だが、本機には水準器が設けられており、ファインダー左脇のプリズムでファインダーを覗きながら確認できる。これが建築撮影に絶大な威力を発揮する。一方、今回はイエナに赴くことから、カール・ツァイス・イエナ銘のレンズ 3 本とそれらを装着できるコンタックス II 型（1936 年登場）をサブ機材として用意した。高速シャッターと低速シャッターを一つにまとめた一軸不回転シャッター、金属製縦走りフォーカル・プレーン・シャッター、距離計用ファインダーと構図合わせ用ファインダー（焦点距離 5cm 用のみ）を一体とした一眼式ファインダー、バヨネット式のレンズ交換システムなどの先進機構を盛り込んだ、135 フイルム使用機としては当時の最高級カメラである。

NICHE（ニッチ）

「ニッチ」とは、イタリア語では「ニッキア」（nicchia）といい、フランス語の「ニーシュ」（niche）を経て、同じ綴りのまま英語の「ニッチ」となった。日本語では「壁龕（へきがん）」という。古典主義建築のファサードや壁面に施された窪みを意味する。ラテン語の「巣」を意味する「ニドゥス」（nidus）に由来するという説や、半球形となっている頂部が貝殻模様で装飾される場合もあることから貝殻を意味するイタリア語「ニッキオ」（nicchio）を結びつける説もある。この空間には古代ギリシア・ローマ神話の神々やニンフ、ローマ皇帝などの彫像が置かれた。転じて、教会堂内における聖体（キリストの血と肉であるワインとパン）を置く同様の空間や、近世の宮殿や貴族住宅における寝台を収めるアルコーヴを指すようになった。『NICHE』という書名には、大学の知的資源が溢れ出る窪みでありたいという願いを込めている。

大学の知的資源やネットワークを生かして社会に貢献する建築とデザインの本『NICHE』のダイジェスト版